

事業概要：保育園留学を軸とした地域への人流創出と子育て等環境向上事業

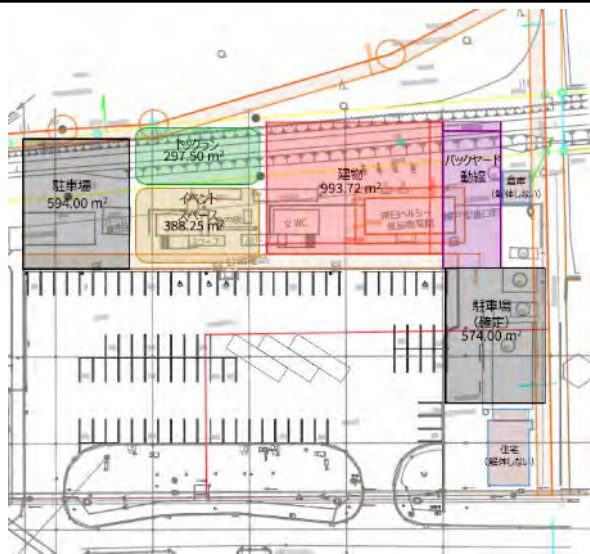
継続

申請者	北海道月形町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	33,668千円 (9,910千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	「保育園留学」を活用し、子育て世代をターゲットに新たな関係人口を創出し、地域社会との持続的なつながりを構築することで、地域経済の活性化を目指す。取り組みを通じて、町が持続可能な地域社会を構築し、若年層や子育て世代の定住を促進するための基盤となる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ①「保育園留学」のワンストップ提供 地域外からの人流を創出することで、定員に対する空き枠を埋めながらこども園での雇用維持・雇用創出につなげます。また、地域外から訪れる人には、子連れで町の住環境を体験しながら町の理解を深める機会を提供し、月形町ならではの食・体験と接続し滞在期間中の消費活動につなげ、経済活動を活発化させます。 ②移住・二拠点居住の実現 移住に必要な情報の提供や、イベント等を通して地元の人との交流や既に移住している方からの情報提供などの支援体制の整備、地域全体で二地域居住・定住の促進に取り組む体制を構築します。 ③関係人口の拡大 地域外の人と関わる機会を提供することを目的とした人材を呼び込み、月形町への移住に興味がある方に対し魅力を訴求していきます。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 1. 保育園留学運営経費 (3,630千円) 2. 移住・二拠点居住実現に向けた業務 (2,200千円) 3. 中期滞在の環境整備 (3,420千円) 4. 移住パンフレット印刷業務 (660千円)						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①滞在世帯数 (+35組) ②滞在日数 (人数×日) (+735日) ③地域への経済効果 (+7,000千円) ④移住を希望する人の数 (+11人)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

申請者	北海道月形町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	46,298千円 (46,298千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	① 機動的な住宅ストックの確保と「月形型・居住プラットフォーム」の構築 ② 子育て世帯を中心としたニーズに対応する「高付加価値な滞在環境」の提供と教育的価値の創出 ③ 地域のレジリエンス強化と多目的インフラとしての価値最大化						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 民間賃貸住宅が極めて少なく、空き家改修に時間とコストを要する本町の現状において、短期間で高機能な住環境を提供できるトレーラーハウスを整備することで、保育園留学等で本町を訪れる子育て世帯に対し、単なる宿泊ではない「暮らしの試行（お試し居住）」の場を即座に提供できる。 都市部から子育て世帯が1～2週間の単位で中期滞在することで、町内の商店や温浴施設等への直接的な経済流入が継続的に生み出すことができる。また地域外からの留学児童を安定的に受け入れることができ、園児数の維持や教育環境の質の向上に寄与する。これらが地元生産者や商工業者が安心して働き続けられる環境を守り、地域産業の担い手流出を防止することに繋がることを目指す。 これにより、一過性の観光では得られない「月形町で暮らすこと」への愛着を醸成し、将来的な二地域居住や移住への確固たる動機付けを行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・トレーラーハウス購入費 移住・定住等拠点整備業務 46,298千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①二地域居住・UIJターンの者数（+15人） ②年間のべ利用人数（+66人） ③滞在に伴う地域内消費額（+4,660千円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

事業概要：道の駅リニューアルに伴う観光拠点整備事業

新規

申請者	北海道浦臼町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,399,555千円 (67,309千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・道の駅を地方創生・観光を加速する拠点と位置づけ観光誘客と交流人口の増加を目指す。 ・地域特産品のブランド化を展開し、地場産業の付加価値向上を目指す。 ・特産品の販売促進や観光消費の拡大により、地域経済の底上げを目指す。 ・道の駅が多機能化により、住民の憩いの場としての機能を高め地域コミュニティの活性化を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 浦臼町が抱える人口減少や担い手不足といった課題に対応するため、既存の道の駅と農産物加工施設を一体的にリニューアルする。道の駅では、町内農産物や加工品の販売強化と観光・交流機能の向上を図り、交流人口の拡大と地域の魅力発信を進める。あわせて、農産物加工施設の設備更新により、高付加価値な商品開発・製造体制を整え、生産から加工・販売までを地域内で完結できる仕組みを構築する。これらの取組により、地域経済の活性化や農業・商工業の所得向上を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・道の駅周辺施設解体工事 42,416千円 ・道の駅新駅舎実施設計（委託料）24,893千円 （新駅舎、農産物加工施設、外構に係る実施設計）						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①浦臼町観光消費額（+3.9億円） ②道の駅年間来訪者数（+5.1万人） ③年間イベント・体験プログラム参加者数（+1,600人） ④道の駅売上額（+917万円） ⑤新規開発商品数（+7品目） ⑥新規雇用創出数（+10人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

事業概要：未来に咲きほこる「北竜ひまわり商社」（仮称）構築プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	北海道北竜町	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	379,432千円 (77,900千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	・ひまわり観光拠点や産直施設の収益性向上を図る ・ひまわり開花時期以外の来訪者や増加させ、町内消費を拡大させる。 ・新たな仕事の切り出し等を行い、雇用機会の拡大を図る		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域の特産品や観光資源を活用し、地域内外の関係者と協力して新たな産業や体験型アクティビティを創出する。これにより、観光客の消費拡大や町の経済活性化を図るとともに、若者や高齢者の就労機会や地域の活躍の場を増やすことを目指し、デジタル技術を活用した買い物支援や、イベントや環境整備を通じて誘客を拡大し、地域の持続的な発展を推進する。		
	【R8年度事業 経費内訳】 みんなで創り・育てる「地域商社」事業 ・「ひまわり時間」（仮称）体制整備・支援 3,000千円（委託料） ・プロモーション展開 4,400千円（委託料） ・イベント開催 4,700千円（補助金） ・ひまわりの里誘客受入管理運営 38,000千円（委託料等） ・アクティビティ開発関連業務委託費（委託料）：9,000千円 ・サンフラワーパーク北竜温泉魅力充実 2,000千円（委託料） ・買い物支援等のしくみ構築 6,800千円（委託料） 「外貨獲得×しごとづくり」のためのフィールド整備事業 ・「ひまわりライス」の販売拡大 5,000千円（委託料） ・農産物を活用した特産品製造等 5,500千円（委託料） ・「ひまわり時間」（仮称）機能の企画・運営 5,700千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①サンフラワーパーク北竜温泉売上高（+3.25億円） ②新規就労者数（+200人） ③観光入込客数（+361.5千人） ④新規商品・サービス開発数（+27個）	URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL	令和8年8月公表予定

事業概要：「ひまわりホールディングス」で目指す未来につながるまちづくりプロジェクト

継続

申請者	北海道北竜町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	7,704,334千円 (2,019,458千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・コンパクトタウン・プラス・ネットワークと、町全体を一つの経営体に見立てた「ひまわりホールディングス」の構築により、ハード・ソフト両面からの一体的な「3つの集約化」と、デジタル地域社会の形成を徹底的に進めることで、人口が減っても、誰もが住みつづけられる「ひまわり暮らし」ができる町を実現する。 ・主体的で共創的な地域や町外とつながって学ぶ教育・子育てにより、小規模自治体だからこそできる付加価値労働生産性の高い子ども達を育て、親自身も満足な所得を得て自分らしく働き、子育てできる、楽しい「ひまわり暮らし」をしたいと感じる若者や女性から選ばれる町を目指す。 ・「ひまわり暮らし」や「ひまわりホールディングス」をコアとした北竜町のブランドを確立し、一貫したプロモーションや交流人口及び関係人口の受入体制・環境の整備、交流人口を関係人口化するプログラム等を行い、関係人口の創出・拡大・深化、転出者の減少、移住者の増加を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業の事業期間に集中して、多くの専門家や専門的かつ実績のある企業との協働と徹底的なデジタル技術の活用により、目指す姿を実現することはもちろん、本事業終了後も、人的運営面でも財政的経営面でも自立して持続可能な体制（各種システムや制度、しくみを含む）を確立する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 ・まちなか活性化・コンパクトタウン推進事業 143,550千円 ・地域基幹交通システム構築事業 101,849千円 ・まちづくり人材確保・育成事業 57,552千円 ・子どもの学びと成長促進事業 258,203千円 ・ブランドマネジメント・実践事業 110,121千円 ○拠点整備事業経費 ・観光交流センター実施設計 101,080千円						
主なKPI	①中心市街地エリアに新たに居住した人 （+161人） ②新たに構築する地域交通システムの利用者数 （+67,283延人） ③「ひまわりホールディングス」で活動する人 （+214人） ④顔が見える関係性を構築し北竜町内で活躍する町外者 （+2,444人） ⑤新たに開発された商品やサービスの数 （+254件） ⑥新たに増加した世帯数 （+164世帯）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年8月公表予定

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

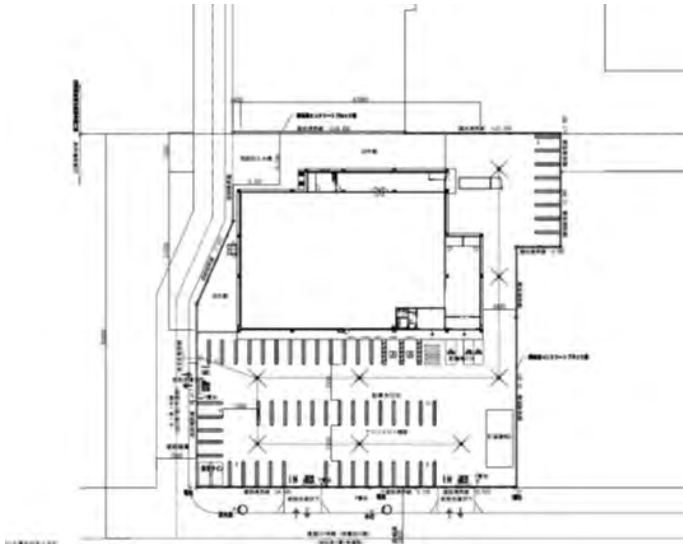
事業概要：オール鷹栖による持続可能な地域づくり拠点形成事業

旧制度（推進）

申請者	北海道鷹栖町	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R9年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	62,671千円 (13,233千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	■ 地域社会で地方創生を担う人材育成と、地域の課題を自ら解決していく仕組みづくりを図る。 ■ 暮らしを支える小さな拠点を形成していく住民の参画力を最大限に発揮する仕組みづくりを図る。 ■ 小さな拠点と多様な主体とが、複層的に連携を図って地方創生を進めていくために、民間活力や広域連携、関係人口との関りを、積極的に推進する地域づくりを実現する。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 住民主体の地域づくりへの意識醸成と小さな拠点ごとの基盤強化への支援を柱として、リーダー人材の育成確保、域外人材との共創による課題解決メソッドの定着、自主防災や生活支援機能の強化、稼ぐ力を高めるコミュニティビジネスの創出、ゼロカーボン地域社会の推進等に、多様な主体の参画と多様な連携によって取り組む。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ■ 小さな拠点における課題解決の活動実践（補助金） 5,500千円 ■ 人材育成研修 1,000千円 ■ 自主防災や生活支援の取組み支援 2,000千円 ■ 関係人口と地域の協働の取組み支援 1,200千円 ■ 民間連携によるゼロカーボン事業の実施 1,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	① 人口の社会動態における転出入の差（+55人） ② 小さな拠点を単位として住民主体で新たに事業化された課題解決の取組み（+20事業） ③ 事業を通して新たに生じたコミュニティビジネス（+7件） ④ 小さな拠点の事業運営に関わった関係人口の延べ人数（+200人）		URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL https://www.town.takasu.hokkai.do.jp/gyosei/administration/detail.html?content=983

事業概要：鷹栖町商業拠点施設整備事業

継続

申請者	北海道鷹栖町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	383,085千円 (9,883千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	日常生活に不可欠なサービスである買い物拠点施設の整備を行い、買い物弱者対策を行う。 特産品販売、観光案内コミュニティスペースの整備を行い、これまで課題となっていた地場製品の販売場所の確立を行う。それにより、生産者にとっては新たな販路となり、消費拡大により外貨を獲得するとともに地域ブランドの認知度を高める。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 町内で生産・加工された特産品や農作物の提供を行い、これまで課題となっていた地場製品の販売場所の確立をR7年度に行った。 生産者にとっては新たな販路となり、消費拡大により外貨を獲得するとともに地域ブランドの認知度を高めることができることから、販売促進、ブランド力向上に向けた取り組みを行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 地場製品の販売促進、ブランド力の向上推進事業 ・地場製品の販売促進、ブランド力向上に向けたプロモーション活動経費（消耗品、役務費、委託料、使用料、原材料費、備品購入費、負担金）5,087千円 ・生産者と消費者をつなぐマネージャーの配置（マネージャー業務の委託） 4,796千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①施設整備をする地区の世帯数（+10世帯） ②施設の年間利用者数（+82,800人） ③施設の年間売上高（+1.65億円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.takasu.hokkaido.jp/gyosei/administration/detail.html?content=983

事業概要：官民連携の新たなタウンプロモーションによる地方創生人材の確保育成事業

継続

申請者	北海道鷹栖町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	86,950千円 (34,850千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	官民連携による新たなタウンプロモーションの構築と推進を通して、特に若者や女性をターゲットとした人の流れを創出し、地域で活躍する人材を確保、育成する。 関係人口や若者交流を促進し、女性や若者が活躍できる場づくりを進めることで、地域の課題解決力の向上を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 民間人材や外部人材との連携によって、新たなタウンプロモーション戦略を構築し、推進することで、人の流れを創出し、地域の強みである農業、農村資源と交わることで、地域の稼ぐ力と可能性を向上させる人材の確保育成を進める。 若者交流や関係人口などの多様な関わりを地域課題解決へと巻き込んでいく取り組みの推進を、デジタル技術を活用しながら進める。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・新タウンプロモーションの推進（印刷製本、委託料等）10,100千円 ・SNS運用システム構築 2,000千円 ・農業分野人材の確保、育成 10,500千円 ・農業先端技術の調査研究（消耗品、負担金等）3,250千円 ・郷土資料のデジタルアーカイブ化 2,500千円 ・関係人口のモデルプロジェクト実践支援 6,500千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①転入者数（+615人） ②農業研修施設を修了して新規に就農した人数（+6人） ③女性または40歳以下の地域おこし協力隊員採用人数（+9人） ④移住者、関係人口の関わりから新たに生まれた事業（+5件） ⑤地域の課題解決に関わりを持った関係人口の延べ人数（+120人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.takasu.hokkaido.jp/gyosei/administration/detail.html?content=983

事業概要：鷹栖町賑わい・コミュニティ創出施設整備事業

新規

申請者	北海道鷹栖町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	26,000千円 (26,000千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・将来的な町での起業による空き店舗の活用や継業の促進、商店街の活性化、お試し営業による賑わいの創出を目指す ・新たな商品開発による地場産業の活力増強、事業拡大、雇用創出を目指す。 ・関係人口創出や人材育成に寄与する公共的機能を担い、町内外の人材が関わることで新たな視点を獲得し、イノベーションの土壌を作る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 賑わい・コミュニティ創出施設を新たに整備する。3つの機能を備え、①「体験・実証 機能」として、飲食・物品の試験販売、サービス業のお試し営業（いわゆるチャレンジショップ）を可能とし、初期投資のハードルを下げることで挑戦することの後押しを行う。②「開発・検証機能」として、試作品やテスト商品の開発、小ロット製造を可能とする。また、2025年度に整備した商業拠点施設内の物産館や上記のお試し営業を活用した販売の実践により、販路の構築を図る。③「交流・学び機能」として、起業希望者や既存事業者、移住者等の人材交流の場や料理教室やビジネスワークショップ、学習機会の提供などを可能とする。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・賑わい、コミュニティ創出施設整備 25,000千円 ・施設整備による備品購入費 1,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地区の世帯数（+10世帯） ②新たな起業者数（+3事業者） ③施設の利用者、来店者（700人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.takasu.hokkaido.jp/page/1100.html

事業概要：こども包括支援多機能型点施設整備事業

新規

申請者	北海道鷹栖町					初回採択回	令和8年1月募集	
事業計画期間	R8-R11年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	274,499千円 (13,900千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	・子育て世代を中心に多世代が交流できる拠点を整備し、地域の見守り・相談・支援機能を一体化した包括的な子育て支援体制を構築する。 ・若者・女性・高齢者の地域参画やチャレンジ機会を創出し、関係人口の拡大と地域コミュニティの再生を通じて、持続可能な地域づくりに寄与する。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 多世代交流を核とした「こども包括支援多機能型拠点」を整備し、地域カフェやチャレンジショップ、学びの場、こども発達支援センター機能を一体的に展開することで、子育て世代・若者・高齢者・地域住民が日常的に関わり合う共生型コミュニティの形成を図るものである。交流の中で生まれる気づきを専門支援につなぐ循環型支援モデルを構築し、女性活躍や若者の地域定着、関係人口の創出、地域参加の裾野拡大を一体的に進め、持続可能な地域包括支援体制の確立を目指す。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・子育て世代・地域住民のコミュニティ拠点の整備 実施設計委託 13,900千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①子育て世代世帯数 (±0世帯) ②地域の社会参加者数 (+70人) ③拠点全体の年間利用者数 (+3,700人) ④子育て世代・若者の地域定着意向率 (+70%) ⑤地域カフェ・チャレンジショップ販売額 (+664万円) ⑥地域カフェ来所者数 (+1,440人)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.takasu.hokkaido.jp/page/1100.html	

事業概要：学びと関わりの拡充による住民の暮らしと安全を守る地域社会構築事業

新規

申請者	北海道鷹栖町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	47,300千円 (11,200千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・「学び」「交流・関わり」を視点に、子どもや女性、課題を抱える方など、あらゆる立場や年代の誰もが交流と活躍の場を広げ、地域活動を活発化し、住民の暮らしの安全が守られていくことを目指す。 ・地域人材の活動を柱に、関係人口との交流や共創が交じり合って、地域の価値が高まる活動が広がり展開されていくことで、新たな人の流れを生み出していくことを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 誰もが学びと交流を実感できる地域環境の充実 課題を抱える子どもたちを中心に、大学生や地域住民など様々な人が関わり、個性に合った学びや地域との交流を支援していく拠点的機能の充実を進める。 子どもと女性が輝き活躍する地域社会の実現と関係人口との共創の仕組みづくり						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・拠点的機能を持つスペースの初期運営支援（委託料） 11,000千円 ・女性ニーズ把握のためのワークショップの開催 150千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①転入者数（+15人） ②拠点スペースの年間利用者数（+1,000人） ③地域や社会をよくなる活動に関心がある児童生徒の割合（+5%） ④地域内人材と関係人口の関わりから新たに生まれた事業数（+3件） ⑤地域活動を担う住民団体における構成員の女性比率（+6%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.takasu.hokkaido.jp/page/1100.html

事業概要：育って良かったと思える町シビックプライド醸成事業

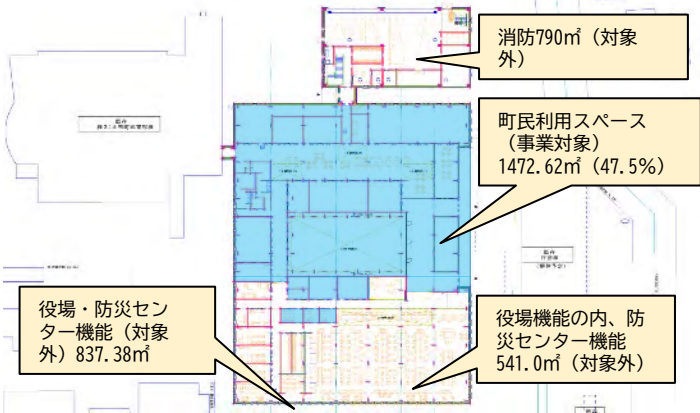
継続

申請者	北海道比布町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	229,899千円 (200,629千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	継続的な転入の阻害要因となっている、子育て世代のニーズに沿った受け皿（物件）不足の解消 子育て世代の関心が高い、高質な子育て・教育、環境の整備。相談体制の強化。 比布町での子育てを希望する人たちを確実に移住・定住につなげる						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 子育て世代移住を呼び込むコーディネーターの配置やPR事業（ソフト事業）、移住者受け皿不足を解消するための分譲地の道路整備および地域住宅計画に基づく民間集合住宅建設促進補助（インフラ整備）など連携により、子育て世代のUIターンの増加を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 キャリア教育実施経費（既採択事業） ・キャリア事業専門員配置（会計年度任用職員）：4,000千円 ・シビックプライドの醸成を目的としたキャリア事業経費 ・前期課程向け：講師謝礼 140千円 ・前後期課程向け：一流の技術に触れるキャリア事業 実施団体への交付金：1,600千円（ゲストへの謝礼・交通費分） ・後期課程・高校生向け：大学生との交流事業 2,000千円 ・子育て世代移住促進コーディネーター配置 1,100千円 ・宅建協会とのPR連携 報償費（謝礼）500千円 ○インフラ整備事業経費 町道整備 143,289千円 民間集合住宅建築促進 48,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①UIターン者数（+35世帯） ②1学年の児童生徒数平均（+3%） ③アンケート調査における 各種事業の満足度およびこの町で育って良かったと思う児童生徒の割合（+100%） ④後期課程・高校生向け事業のアンケート調査における満足度（+100人） ⑤SNSフォロワー数（+300人） ⑥社会実践教育プログラム実践数（+4事業）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月掲載予定

申請者	北海道比布町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	11,566千円 (3,910千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	「世界一大雪山がきれに見えるまち」を前面に出し、景観スポットの整備及びPRを行うことで、特産品販売促進や観光客誘致につなげる。積極的なトップセールスを行うことで、特産品販売促進や観光客誘致を図る。コワーキングスペースやマッチングイベントへの開催、参加の拠点を確保することで、スポットではなく、腰を据えたPR活動が可能となる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・「世界一大雪山がきれに見えるまち」を前面に出した景観スポットの整備 ・SNSと併用した積極的なトップセールスの実施 ・コワーキングスペースやマッチングイベントへの開催、参加の拠点確保 ・地域の強みを活かした特産品開発促進						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・世界一大雪山がきれに見えるまち環境整備事業 管理消耗品300千円 景観スポット管理委託料660千円 ・道外拠点確保及びトップセールス推進事業 トップセールスにかかる旅費 1,600千円 特産品開発補助金 800千円 委託料 道外拠点確保 550千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域観光消費額 (+3,000万円) ②トップセールスによる販路拡大数 (+10件) ③拠点を活用したイベントによる各種マッチング (+5件) ④事業名をキーワードとしたSNS発信数 (+100件)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月掲載予定

事業概要：人の暮らしと地球を守る 比布町型地域暮らしサービス拠点整備事業

新規

申請者	北海道比布町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R14年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,096,736千円 (246,294千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	最大のテーマは人口減少対策であり、子育て世代を中心とした現役世代の転入増を目指している。そのためには、町内資源の利便性が高く、安心して暮らすことができ、働く場が確保されている環境づくりを目指す。 ・行政、福祉、交通等のくらしサービス拠点施設の整備により、選ばれる町を目指す。 ・ZEB化施設の整備により、本施設を象徴として、本町が掲げるゼロカーボンシティの実現を目指す ・地域防災および日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震などの広域的な大規模災害発生時には広域な支援を実施						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 (地域くらしサービス拠点の整備) 1カ所で交通、子育て、福祉、学び、交流、防災、消防、行政など複数の生活に必要なサービスを提供する地域くらしサービス拠点を整備。 (ゼロカーボン拠点の整備) 本拠点の整備にあたっては、はZEB化、再生可能エネルギーを活用。町内のゼロカーボン拠点整備(公共交通との連結・事業者との連携) バスと連結して利便性向上を図るとともに、公共交通事業者や、運輸局、地域住民などが参加する地域公共交通活性化協議会と連携し、バス運転手不足解消や公共交通の重要性についての意識醸成に向けたソフト事業を実施。					人の暮らしと地球を守る 比布町型地域くらしサービス拠点整備事業 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・実施設計委託料費 244,200千円 (うち、交付対象事業経費115,995千円) ・実施設計ZEBプランニング委託料12,100千円 (うち、交付対象事業経費5,748千円) ・既存施設解体実施設計委託料 10,384千円 (うち、交付対象事業経費 4,932千円) ・既存施設アスベスト調査委託料 2,467千円 (うち、交付対象事業経費 1,172千円) ・既存施設解体工事費 249,363千円 (うち、交付対象事業経費 118,447千円) 【合計】 518,514 千円 (うち、交付対象事業経費 246,294千円)						
主なKPI	①転入者数 (+30人) ②地域暮らしサービス拠点の整備により、生活に必要なサービスの利便性が向上したと思う町民の割合 (日常生活に不可欠なサービスへのリーチ・アクセス度合い) (+85%) ③地域暮らしサービス拠点で実施する高齢者向け講座の参加率 (+40%) ④地域暮らしサービス拠点で実施する公共交通利用促進・脱炭素推進意識醸成イベント数 (+7事業) ⑤拠点において、連携中枢都市圏参加自治体と連携し実施する大規模地震被害想定地域との連携事業 (+5事業) ⑥地球温暖化計画に基づくZEB化公共施設数 (+1施設)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

事業概要：感動人口1億人と越境共創リビングラボによる次世代型地域産業クラスター形成プロジェクト

新規

申請者	北海道上川町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	804,430千円 (177,280千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・官民共創中間支援組織とローカルゼブラの主導により、地域外の企業、大学等が参入し、社会性と経済性が両立するゼブラ思想を共有する新しい地域産業クラスターの形成により、リビングラボの手法を用いた少子高齢化社会に対応する次世代型ソリューションの実証、実装を連鎖的に生み出し、社会的インパクトも発揮しながら地域経済の付加価値向上を目指す。 ・また、これら経済循環の再構築に伴う事業に、都市部の経営者やビジネスパーソン、学生などを積極的に呼び込み、一般的な関係人口よりも地域へのコミットメント意識や行動力がより高い「感動人口※上川町独自の呼称」を生みだし、定住人口規模に左右されない地域経営構造を構築していく。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 官民共創中間支援組織の組成と機能強化により、行政主導のまちづくりからの脱却を図りつつ、地域経営マネジメントの高度化や、人と資金の流入等を促進しながら、10年先、20年先を見据えた次世代型の地域産業クラスターを形成。少子高齢化に対応した次世代型ソリューションの開発や実装、ローカルゼブラの創業連鎖とホールディングス化、感動人口と地域を接続する次世代型アンテナショップの開設、ローカルゼブラスクールの運営などを総合的に展開していく。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・官民共創中間支援組織の組成・機能強化101,801千円 ・感動人口創出による地域人材循環、資金循環、消費拡大84,225千円 ・次世代型ソリューションの実装、次世代型地域産業クラスター形成164,285千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域内の付加価値増加額の推計（+1.40億円） ②新規開業数・事業承継数（+9件） ③本事業への企業や団体の参画数（+36件） ④個人版ふるさと応援寄付の増加額（+8,245万円） ⑤感動人口創出数(プラットフォーム登録者数)（+349人） ⑥次世代型アンテナショップ利用者数（+3,506人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公開予定

事業概要：子どもをまんなかにつながる「東川スタンス」拡大プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	北海道東川町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	217,800千円 (68,948千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	・東川町で子どもをまんなかに分らしい豊かな暮らしを望む人の移住定住による人口の維持増加 ・若い世代が安心して暮らし、希望する人が子を産み育てていける町づくりによる出生数増加 ・ワークライフバランスに配慮した女性が子育てをしながら働ける環境整備による町民所得額増加 ・子どもや若者との交流による高齢者の健康寿命の延伸 ・地域で子どもを育てる取組みによる地域コミュニティ機能の向上と地域プライドの醸成、Uターン促進		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 子ども・子育て世帯へのきめ細やかな子育て支援、「東川スタンス」を浸透させるための気運醸成、地域住民が自然体で子どもを守り、育てるしくみの構築、男性の育児参加や機会の拡大、多様な働き方・ワークインライフの充実、若い世代が町で子どもと幸福に暮らすPRなど、あらゆる施策を“こどもまんなか”視点で、総合的に展開し、少子化を克服する“こどもまんなか東川”の実現するとともに、「東川スタンス」を広く発信することで、この理念に共感し、東川町で自分らしい豊かな暮らしを望む人の移住定住による人口の維持増加を図っていく。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・子どもの心とからだに豊かになる事業 13,827千円 ・パパやママが楽しく子育てしながら働ける事業 13,343千円 ・おじいちゃんおばあちゃんが元気になる事業 14,388千円 ・地域みんなが明るくつながり誇りがもてる事業 12,551千円 ・若い世代が子どもと暮らす未来に希望が持てる事業 14,839千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の人口（+120人） ②年間の出生数（+27人） ③町民の一人当たりの平均所得額（+350千円） ④要介護（要支援）認定者の出現率（▲2.1%）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://higashikawa-town.jp/



事業概要：ものづくりの力でヒト・モノ循環「東川MADEプロジェクト」

継続

申請者	北海道東川町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	581,420千円 (199,070千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	木工家具産業の需要拡大、原材料安定供給・収益性の向上、さらには担い手の確保により、家具産地が直面する課題を解決し、木工家具事業者の従事者数の増加、移住者の増加、家具を軸とした新たな町内の経済効果を促進。 これら伝統的なものづくりの力を活性化させ、「ヒト」と「モノ」の循環により、持続可能なものづくり産業を形成する取組＝「東川MADEプロジェクト」により、「ものづくりをするなら東川町」というブランドイメージを確立し、地域の稼ぐ力を高め、町内の新たな雇用を創出し、ものづくり人材のUIターンによる人口増加、関係人口の創出や拡大、町内経済循環といった好循環を実現する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 町内家具事業者を中心に新たな組織を立ち上げ、地域資源を活用した新素材や製品開発、デジタル技術による効率化・収益性向上に取り組む。産地ブランドの発信や新たな市場開拓を行う体制を整備し、国内外の新たな販路拡大や産地ブランド強化を図るとともに、町内の教育機関や都市部企業と連携し、ものづくり人材の育成体制の整備や、事業者の人材受入体制を整備することで、若年層への教育や人材育成体制を整備し、持続可能なものづくりと担い手確保を推進する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・家具産地の国内外認知向上と輸出を含む 市場開拓等による新たな需要拡大 110,990千円 ・デジタル技術や地元資源を活用した新たなものづくり推進による 原材料安定供給と収益性向上 41,250千円 ・ものづくり人材の発掘や育成による担い手確保 46,830千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①木工家具の販売増加額（＋4.1億円） ②新商品開発や製造効率化による収益性改善事業者数（＋23者） ③ものづくり人材の育成人数（＋280人） ④木工家具事業従事者増加数（＋32人） ⑤木工従事者の移住者数（＋25人） ⑥町内に与える増加消費額及び経済波及効果額（＋2.7億円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://higashikawa-town.jp/

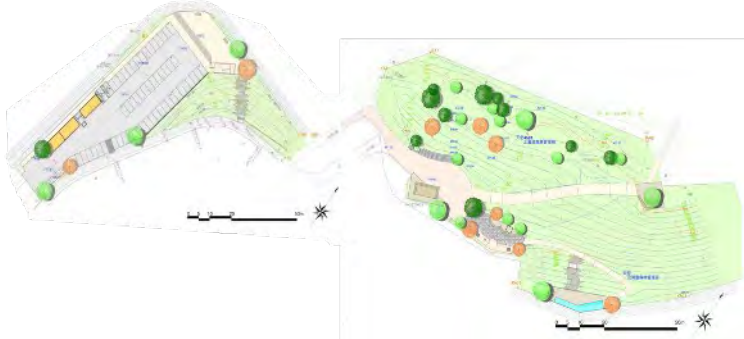
事業概要：多文化共生2.0「つながるHIGASHIKAWA共生モデル」

継続

申請者	北海道東川町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	889,730千円 (207,900千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	公立日本語学校等による従来の日本語教育を通じた留学生受入から、就職や定着、卒業の関係構築にまで踏み込んだ、包括的な仕組みを構築することで、留学生が（１）東川町で学ぶ、（２）地域で働く・暮らす、（３）卒業後も東川の一員として関わり続け、地域人口の維持、担い手の確保、関係人口の創出・拡大、地域経済の活性化といった好循環をもたらす、持続可能な多文化共生型の地域社会モデル「つながるHIGASHIKAWA共生モデル」の確立を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 留学需要の高まりや就職等の多様化するニーズに対応した受入環境や人材育成体制の構築、地元企業と留学生のマッチング、就職に向けたサポート、留学生との関係構築による関係人口拡大・創出といった持続可能な多文化共生モデルの構築を推進する。 また、外国人留学生の地域就職・定着を促進するための基盤整備として、2つの受入施設の新設整備を実施する。これらの施設はいずれも東川町内に整備され、外国人留学生を対象として、在学中から卒業までの生活基盤から、卒業後の地域内での就職・定住までの定着化までの一貫した受入体制を構築するものである。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・地域内の受入体制強化と日本語教育に留まらない多様な育成機会の創出 89,100千円 ・留学生と地域企業の相互支援による担い手人材の確保と地域経済の活性化 55,000千円 ・町と多様な留学生がつながり続ける仕組みの構築と関係人口化の推進 63,800千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①留学生の地域内定住者数(+60人) ②留学生増加人数(+212人) ③留学生の就職人数(+95人) ④留学生人材の受入事業者数(+43者) ⑤留学生関係人口増加数(+2,500人) ⑥町内増加経済波及効果(+9.6億円)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://higashikawa-town.jp/

事業概要：大雪山国立公園天人峡自然環境整備による観光誘客推進プロジェクト

新規

申請者	北海道東川町ほか 2 自治体※					初回採択回	令和 8 年 1 月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,605,968千円 (505,906千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	大雪山国立公園天人峡地域を再生し、安全で快適な公園利用環境を整備するとともに、官民連携による高付加価値観光施策を展開することを目的とする。これにより観光客の回復を図り、地域経済の活性化や雇用創出、関係人口の拡大を通じて、自然資本の保全と活用の好循環を実現し、圏域全体の観光振興に寄与する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、安全で快適な公園利用環境の整備を核とした拠点形成と、体験型観光、ガイド育成、広域周遊、国内外プロモーション等のソフト事業を一体的に展開することにより、地域外からの需要を継続的に取り込み、地場産業の付加価値向上と新たな市場・販路の創出を図る。 加えて、自然環境の保全と利用を両立させる取組を通じて、関係人口や企業との接点を創出し、将来的な投資や継続的な関係構築につなげる点においても、地域経済の維持・拡大を目指す。					〔北海道東川町大雪山国立公園(天人峡地域)〕 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・案内情報・交通アクセス改善による受入環境整備 9,130千円 ・天人峡地域を活かした国内外観光誘客推進と受入体制の再構築 31,156千円 ・天人峡地域の理解促進・関係人口の創出拡大 15,620千円 ○インフラ整備事業 ・大雪山国立公園天人峡地域道路・公園整備 450,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の経済波及効果増加額(+7.1億円) ②地域の観光入込客増加数(+34,290人) ③地域内の宿泊者増加数(+7,246延人) ④天人峡地域の来訪者数(+21,600人) ⑤天人峡地域の活用事業回数(+17回) ⑥環境保全を用途とした大雪山国立公園協力金の増加額(+1,200万円)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://higashikawa-town.jp/

※北海道東川町、北海道、美瑛町の広域連携事業

事業概要：人と経済を育てる スポーツ共創のまち「東川スポまち推進事業」

新規

申請者	北海道東川町						初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,842,740千円 (1,412,620千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	✓		
目的・効果	本事業は、Jリーグの秋春制移行に伴う夏季合宿需要の高まりを契機に、プロスポーツ合宿を安定的に受け入れる環境を整備し、町内消費や雇用創出などの経済効果を最大化することを目的とする。スポーツ施設整備を核に、交流・消費を促す取組を展開することで、地域経済の活性化に加え、人材育成や健康増進、関係人口の拡大、将来的な移住・定住につながる持続可能な地方創生モデルの実現を目指す。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 新たな合宿誘致や受入体制を構築し、スポーツ施設整備や受入インフラ整備等により、プロスポーツチーム等の合宿受入の拡大を図る。新しい人の流れを着実に町内の経済消費へと結びつける施策をはじめ、関係人口・移住定住の促進等事業を展開する。 また、地域外のスポーツ人材等と連携し、地域住民の健康づくりや人材育成等にも取り組むなど、外部スポーツ人材や企業と連携した好循環を創出する。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・新たな人の流れに対応した受入環境整備の推進39,050千円 ・スポーツ人材や企業等と連携したアウター・インナー施策の推進68,350千円 ・官民連携合宿等受入推進や関係人口・移住定住の創出拡大59,180千円 ○拠点整備事業 ・全天候型屋内運動施設の整備等 1,182,940千円 ○インフラ整備事業 ・スポーツ人材等受入基盤整備にかかる道路・下水道整備80,500千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①町内増加経済波及効果(+9.9億円) ②町内スポーツエリア利用者数(+5.1万人) ③スポーツイベント・大会及び合宿受入数(+35回) ④プロスポーツチーム等による健康づくり・人材育成人数(+2,160人) ⑤町内宿泊者増加人数(+1.3万人) ⑥本事業実施による移住者増加数(+64人)						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://higashikawa-town.jp/

事業概要：通年の誘客と滞在型観光の推進により経済の好循環と雇用の創出を目指す
美瑛魅力向上プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	北海道美瑛町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	255,122千円 (74,783千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	通年の観光客の増加、滞在型観光の推進による宿泊者数の増加、それらの効果による地域経済の活性化や雇用の創出、転入者数の増加を目指す。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 白金エリアの観光振興では、通過型から滞在型への転換を目指し、観光拠点の整備や自然体験プログラムの推進、ジオツーリズムの導入など多角的な施策を進める。冬季にはライトアップやスノーサイクルイベント、観光情報発信、周遊バスの運行などで集客を図り、オーバーツーリズム対策としては駐車場管理や交通整理、混雑状況の可視化システムの導入により観光地の混雑緩和を進め、地域経済の活性化につなげる。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○滞在型観光の推進 ・観光周遊バスの運行 ※対象経費なし ○冬期における観光客の呼び込み、白金エリアへの集客促進 ・人気観光スポットでのライトアップ事業（補助金：20,000千円） ○オーバーツーリズム対策 ・青い池の駐車場管理（委託料：45,798千円） ・混雑状況可視化システムの管理（委託料：8,800千円）		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（一人当たり単価）（+1,900円） ②観光入込客数（+90万人） ③宿泊客延数（+8万人） ④体験プログラム体験者延べ数（+750人）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://town.biei.hokkaido.jp (令和8年度6月公表予定)



申請者	北海道美瑛町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	484,511千円 (9,732千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	農産物加工や販売、飲食提供、子どもの見守り、介護等のスペースを複合した施設を建設し、地域コミュニティの活性化や老若男女が安全安心に過ごせる環境づくり、地域住民の活躍の場づくりに取り組むことで、持続可能で発展的な地域が形成される。また、対外的にも、本施設における取組を魅力に感じた他地域の方との交流が生まれ、新たな人流の創出や移住定住の促進なども期待される。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 へき地の人口減少等の問題に伴う地域活動の衰退を防ぐため、集会場や高齢者福祉施設・保育所等を兼ね添えた複合施設の新規整備を行う。 本施設は、みんなの家（地域の集会や健康づくり、農業分野の活動促進施設（農産物加工や飲食提供等）を行うスペース）、おじいちゃんおばあちゃんの家（高齢者福祉（小規模多機能施設））、子どもの家（保育支援スペース）の機能を有した複合的施設とし、地域住民や町の福祉事業所等で構成する協議会にて運営する。					 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・外構工事 9,732千円					 	
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①町内人口の社会増(転入者数－転出者数)（+10人） ②施設の利用者延べ数（+7,345人） ③農産物販売数（購入者数）（+560人） ④カフェやイベントスペースを活用して地域が企画・運営するイベント等への地域住民の参加者延べ数（+590人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

申請者	北海道美瑛町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	121,535千円 (24,935千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	関係人口創出・拡大の取組により、町外の方との関係性を構築し、担い手としての人材確保や町民との交流促進による連携した取組を生み出し、さらに町の課題解決や企業・大学との連携による新たな事業展開を行うことで、人材の好循環による町の活性化や町外から町内への外資の流入による経済発展などが期待される。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 関係人口の創出・拡大を図ることで、まずは本町のファンづくりに取り組む。多くの方が美瑛町に愛着を持つことにより、ふるさと納税の寄附増加が見込まれ、特に返礼品提供事業者をはじめとして経済の活性化が期待される。あわせて、町がワーケーション・テレワークの環境を整備し、町内外の方が交流する機会を用意するなど、来町者の滞在を支援することで、多くの方が本町に滞在するようになり、町内消費の増加や関係人口の深化が図られる。近い将来には、より深いファンになった町外の方が町の担い手活動を行ったり、協働した新規事業の実施、町の課題を解決する企画など、様々な活動に波及させる					 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・関係人口創出・拡大を図るための費用 18,676千円 ：関係人口創出業務委託や官民が連携した団体への補助等により、町の担い手確保や町内外の人材還流を図り、町の課題解決や経済の活性化を目指す。 ・関係人口を地域につなぎとめる費用 2,109千円 ：二地域居住環境の整備や町外からの訪問者に対する支援により、町内への人材の定着を図る。 ・地域経済の活性化を図るための費用 4,150千円 ：地域通貨の効果的な運用により、町内消費促進及び経済循環を図る。						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①人口の社会増（転入者数－転出者数）（＋6人） ②町外者による地域通貨の利用金額（＋370万円） ③地域人材育成研修交流施設の利用者数（＋450人） ④ふるさと納税寄附額（企業版も含む）（1億5千万円） ⑤「美瑛町日本で最も美しい村づくり協議会」として実施する物販・P R・その他イベントへの参加者数（＋270人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://town.biei.hokkaido.jp (令和8年度6月公表予定)

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

申請者	北海道中富良野町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	717,119千円 (79,358千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・観光拠点施設を新設し、以下項目別の目的に沿った事業を行い、観光産業と花のまちづくりの持続的発展を目指す。 【1】 観光人材の育成や観光協会の持続的発展を促す仕組みの構築 （1）人材育成システムの構築 、（2）観光協会の持続的発展 【2】 50年以上続く、季節型・通過型観光からの脱却 （1）季節型観光からの脱却 、（2）通過型観光からの脱却 【3】 農業や花等の町独自の産業と人を活かした体験・滞在型観光の推進 （1）インバウンド等の多様な観光ニーズへの対応 、（2）中富良野らしさの伝承						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 前年度新設した観光拠点施設において、観光協会が指定管理者の指定を受け事務所移転し、管理運営や収益事業を展開することで、観光協会の持続的な発展を促し、観光産業に関わる町内事業者への波及効果を促進する。 令和8年7月11日のプレオープンに向けた備品整備、プロモーション等の各種ソフト事業を進め、令和9年度中のグランドオープンに向けては施設周辺の花の植栽を含む外構工事やイベント等を実施し、当該施設を拠点とした地域活性化を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・施設でのソフト事業の企画やインバウンド対応事業（補助金） 3,900千円 ・商工観光事業者へのみらい応援事業・スタートアップ支援（補助金） 3,000千円 ・観光動向調査業務（委託料） 10,000千円 ・景観計画に基づく観光サイン等の整備業務（委託料） 5,000千円 ・連携企業と町内飲食店等が連携したグルメ開発イベント（委託料） 3,000千円 ・地域商社や学校と連携した消費促進やプロモーション事業（委託料） 7,485千円 ○拠点整備事業 ・外構工事 29,117千円 ・備品整備 15,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	① 町内での新規起業件数（+21件） ② 観光協会の正職員人数（+3人） ③ 観光最盛期（6,7,8月）以外の観光入込客数（+18.67万人） ④ 当該施設のテナント、キッチンカー、農産物等直売所での販売収入（+9百万円） ⑤ 町内宿泊施設での訪日外国人宿泊客数（+5.64千人） ⑥ 当該施設の年間利用者数（+7万人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.nakafurano.lg.jp/hotnews/detail/00003596.html

事業概要：北星山エリアの空間を活かしたウェルビーイング創出事業

継続

申請者	北海道中富良野町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	145,880千円 (103,680千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	重要な地域資源である北星山エリアの豊かな自然環境と空間を活かした通年型の観光地づくりを目指す ラベンダー観光以外で新たに滞在できる観光拠点として通過型観光の是正と、北星山エリアにおける観光消費額の増加に繋げ事業の継続性と自立性を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 北星山エリアの有効活用や利用促進を図るため構想を作成する。北星山エリアの有効活用案をもとに、北星山エリアに訪れる町民や観光客が気軽に立ち寄ることができる拠点を整備する。 また、北星山エリアの利用促進施策としてプロモーションの実施、なかふ産業体験プログラムの運用、町内を周遊できるモビリティを導入し、2次交通の検証と観光消費額の増加を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・北星山エリアの利用促進事業 プロモーション事業 6,600千円 ○拠点整備事業 北星山森林公園滞在拠点 97,080千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額（+45,254千円） ②拠点利用者数（+8,028人） ③なかふ産業体験プログラム数（+16個） ④なかふ産業体験プログラム参加者数（+348人） ⑤モビリティ利用者数（+89人） ⑥森林公園町民利用者数（+7,680人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

事業概要：子どもたちが創るタウンブランド事業

新規

申請者	北海道中富良野町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	8,380千円 (3,460千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・教育の成果を地域の資産として蓄積・循環させる ・地域資源の高付加価値化と地場産業への波及 ・「創る人」が育ち続ける持続可能な地域づくり						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、なかふらの学園における総合的な学習の時間を起点に、子どもたちが地域資源（自然・文化・人の営み等）から見いだした価値を「タウンブランド」として整理・公式化し、町、まちづくり商社、企業と連携して商品化・発信へと展開する取組である。教育で生まれた成果を一過性で終わらせず、地域の資産として蓄積・継承することで、地場産業の高付加価値化と人材育成を同時に進める。これにより、教育と地域経済が循環する持続可能な地方創生モデルの構築を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・事業企画・運営・進行管理、ブランド構築に係る経費（コンセプト整理、ロゴ・ビジュアル制作等）（手数料）2,330千円 ・広報・情報発信に係る経費（Web、SNS、プレスリリース等）（需用費・旅費）1,126千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①教育成果を活用し開発した特産品の売上（+300千円） ②全国学力調査の「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」で思うと回答する児童の割合（+3.8%） ③全国学力調査の「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」で思うと回答する生徒の割合（+15.7%） ④ブランド商品・成果物の開発数（+8種類） ⑤PR・情報発信回数（SNS・Wed・メディア等）（+9回）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

申請者	北海道南富良野町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	186,030千円 (181,850千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・高機能な開発拠点を核に、伝統ある地域の特産品のブランド化を展開し、地場産業の付加価値向上を目指す。 ・地域全体で新たな販路開拓に向けたノウハウやネットワークを学び、地域課題である伝統産業の伝承や成長に繋げる。 ・海外企業とのビジネスを通じた外需獲得に向け販路開拓等を幅広く支援し、地域経済の拡大を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 下金山地域の農産物については農産物直売所「作倶楽」で女性農業者が中心となり販売を続けることで集落の活性化を図る取り組みは引き続き行うこと、地元農産物を使用したカフェ機能を備えた施設を新規併設、地域コミュニティの拠点施設としての機能を有することで、今後の下金山地域における地域振興が図られる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建築物本体工事 181,850千円 (木造1階建 直売所店舗、事務所、喫茶等出店スペース、バックヤード等 延べ床面積272.68㎡ トイレ、給湯室、調理場 (各部屋：ストーブ、エアコン完備))						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①新規就農者・農業後継者 (+3人) ②地域農産物を利用した商品 (加工品・メニュー) (+11個) ③町内観光入込数 (+15%) ④農産物直売所「作倶楽」農産物提供参加者 (+5人)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年10月公表予定

申請者	北海道占冠村					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	64,429千円 (170千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	●特産品であるメープルシロップの生産施設整備を行い、生産効率を高めることで新たな製品開発を行うとともにブランド化を図り、観光需要を喚起する。 ●メープル事業実施者が特産品開発の中心となり、地域の魅力づくりと情報発信を行っていくことで関係人口、交流人口の増加に繋げる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 新規施設を整備することにより、生産効率を向上、働き方の見直しを行う。また、単なる特産品開発だけの施設だけではなく、観光体験ツアーなどの見学可能な新たな拠点として、地域の雇用拡大、交流人口の増加及び地域経済の活性化に繋げる。 メープル事業にて起業する地域おこし協力隊員が地域資源を活用した特産品開発の中心となり、地域の魅力づくりと情報発信を行っていく。					 占冠産メープルシロップ 「トペニワッカ」	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 広報・PR経費、販売促進、イベント：170千円 ・イベント経費（チラシ配布・PR経費、会場・備品借上料）100 千円 ・モニターツアー経費 70千円					 拠点整備事業	
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①メープルシロップの生産量増加による地域における雇用の拡大（+4人） ②生産拠点に係る観光入込数 体験ツアー、イベント参加者（+300人） ③メープルシロップの生産量増加により売上販売額の増加（+365万円） ④支援事業により開発新規商品数（+8個）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.vill.shimukappu.lg.jp/shimukappu/section/kikaku/p4ictp000006him.html

事業概要：剣淵高等学校魅力化発信プロジェクト

継続

申請者	北海道剣淵町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	11,919千円 (3,663千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	住んでいる都府県の枠を超え、自分の興味や個性にあった高校に進学する「地域みらい留学」制度を確立し、若者に選ばれる高等学校を目指す。 3年間で定員6割の入学者を確保し、卒業生の3割が町内へ就農・就業できる仕組みを構築することで、人口減少対策や関係人口増など新たな地方創生を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 剣淵高等学校では、特色ある系列（農業国際系列・生活福祉系列・未来のしんろ系列）を有し、「持続可能な未来の担い手」の育成を行っているが生徒確保に結びついていないため、道内外都市部（東京・大阪・札幌）からの生徒誘致のためプロモーション事業を積極的に講じ、生徒の確保・増加を図り、人口減少・担い手の確保につなげる。 また、関連施策として町独自に、フェス参加者等を招いた「地域みらい留学体験会」を開催し、事業内容の充実及び活性化を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 剣淵高等学校魅力化発信プロジェクト ・進学フェス参加（旅費） 1,095千円 ・高速道路使用料（使用料） 12千円 ・パンフレット、ポスター等印刷製本（印刷製本費） 196千円 ・郵便等の通信運搬（通信運搬費） 50千円 ・地域みらい留学参画負担金（補助金、補助及び交付金） 1,595千円 ・合同説明会負担金（補助金、補助及び交付金） 275千円 ・情報発信（委託料） 440千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①入学者数（+13人） ②出展ブース来場者数（+100人） ③町内への就農・就職者数（+6人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年8月公表予定

事業概要：住みたい、住み続けたいまちづくり事業

継続

申請者	北海道下川町					初回採択回	令和7年度第1回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	504,016千円 (181,508千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	①しごとを創る→地域経済産業を振興し、雇用の維持、拡大、人材の確保、育成 ②まちを創る→新たな公共交通や空き家対策など、人にやさしい社会システムの構築 ③ひとを創る→地域独自の教育サービスの構築など未来人材の育成（＝地域教育力向上による若者定住促進） ④ひとや団体を“つなぎ”“ささえ”“つくる”中間支援機構を創る ⑤未来を見据える→未来（人口減少社会・少子高齢化）を見据えた「まちづくりプラン」や「都市デザイン」を創る							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ①しごとを創る（地域経済産業振興事業） 農林商工業の経営基盤強化、人材の確保・育成 ②まちを創る（人にやさしい社会システム構築事業） デマンド交通（予約型乗合タクシー、コミュニティバス）の経営強化 ③ひとを創る（未来人材育成事業） 学校と地域内外との連携による子どもたちの可能性を広げるための地域独自教育サービスの提供と子どもたちに適した教育環境整備 ④ひとや団体を“つなぎ”“ささえ”“つくる”中間支援機構の創設 中間支援機構の創設と運営支援、地域の魅力発信 ⑤未来を見据えた「まちづくりプラン」や「都市デザイン」を創る 未来（人口減少社会・少子高齢化）を見据えた「まちづくりプラン」や「都市デザイン」を策定し効果的な施策を実行					⑤未来を見据えた「まちづくりプラン」「都市デザイン」 ①しごとを創る 農林商工業の経営基盤強化、 人材の確保・育成 ②まちを創る デマンド交通など住み慣れた地域に住み続けられる社会システム構築 ③ひとを創る 子どもの可能性を広げる地域独自教育サービスの構築 ＝地域の教育力を高め若者定住促進 ④ひとや団体を“つなぎ”“ささえ”“つくる”中間支援機構		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 農林商工業の経営基盤強化、人材の確保・育成（補助金・委託料）111,762千円 デマンド交通（予約型乗合タクシー、コミュニティバス）の経営強化（補助金）13,692千円 学校と地域内外との連携による子どもたちの可能性を広げるための地域独自教育サービスの提供と子どもたちに適した教育環境整備（委託料等）18,274千円 中間支援機構の創設と運営支援、地域の魅力発信（負担金等）26,280千円 未来（人口減少社会・少子高齢化）を見据えた「まちづくりプラン」や「都市デザイン」を策定し効果的な施策を実行（委託料）11,500千円							
主なKPI	①農林商工業生産額（＋7.4億円） ②空き家マッチング数（＋3件） ③求人・就業人材マッチング数（＋9件） ④新たな公共交通利用者数（＋1500人） ⑤地域独自の教育サービスを受けた児童生徒（＋55人） ⑥未来のまちづくりに関する計画立案（＋2件）					URL	令和8年度6月公表予定	
※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL			

事業概要：アートを通じた地域活性化事業

継続

申請者	北海道音威子府村					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,700千円 (1,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	おとねっぷ美術工芸高等学校（以下「おと高」）との連携を強化し卒業生やアーティストとの交流を通じて地域の活性化を図る。アート活動を通じて地域住民と外部から来るアーティストとの交流を促進する。これにより新たな人間関係やネットワークが形成され村内での文化的な活性化が期待される。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ○おと高に入学・卒業された方を中心に公募し、アーティストは一定期間村内に滞在し、創作活動を行い、その成果を展示する。音威子府村を舞台に、多様な人々が集まり共創する場づくりを目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 アーティスト招聘による地域交流促進事業 ・アーティスト報酬費等（村補助金）1,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①展示会来場者数（+300人） ②参加アーティスト人数（+11組） ③メディア露出回数（+20回） ④地域住民との交流イベント数（+6回） ⑤地域住民の満足度調査（+3.5点） ⑥新規関係人口の増加数（+100人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.vill.otoineppu.hokkaido.jp

事業概要：空き家とDXを活用した関係人口創出事業

旧制度（推進）

申請者	北海道中川町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	52,493千円 (15,012千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	空き家とDXを活用した関係人口の創出と空き家の解消 既存住民と都市住民等の交流による地域コミュニティの構築 地域資源を活用した空き家改修による地域経済循環の創出 事業を通じた地域電子通貨の試験運用によるDX化の推進		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 空き家とDXを活用し、(株)アドレスが提供するADDressによる関係人口創出を図る。中川町内における拠点開発、家守、街守の選定と支援、DIYの活用による事業展開を行う。会員専用アプリ「シェアナカガワ」を活用したデジタル技術を用いた関係人口増加や交流を実現する。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点開発事業（委託料）1,049千円 ・公共空き家1戸の管理、マネジメントや伴奏支援 ○魅力創出事業（委託料）1,238千円 ・特設サイト制作更新、機能改善等 ○システム開発事業（委託料）3,960千円 ・特設サイト制作更新、機能改善等 ○空き家改修事業 ・空き家のADDress住宅化（工事請負費）7,500千円 など		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域へのUIターン数（+4人） ②本事業による関係人口の増加（+300人） ③ADDress住宅の登録件数（+5件） ④街守の登録件数（+5件）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL https://sharevillage.co/villages/sharenakagawa/landingPage

事業概要：奥道北中川町構想構築事業

継続

申請者	北海道中川町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	177,565千円 (119,009千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	北海道北部（道北）の中川町周辺地域を「奥道北」としてブランディングし、移住定住促進、新事業の創出、観光誘客の強化を図る。長年放置されていた建設会社事務所（旧大永建設）に改修工事を行うことで、「奥道北中川町」の拠点施設としてリニューアルする。既存住民と移住者等の交流促進を図り、若者や女性に移住・定住先として選ばれる地域づくりを行う。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 大都市圏から非常に遠方に位置する当町の不利をメリットに変えるため、豊かな自然や魅力的な人材にフォーカスし、「奥道北」としてブランディングすることで、知名度の向上や、観光目的地になるようプログラム開発やビジネスインキュベーション開発を行う。遊休公共施設を改修し、コミュニティスペース、サテライトオフィス化することにより、地域住民と移住者、来訪者、町内企業と都市部の民間企業が自ずと交じり合う仕組みを作り、移住者や関係人口の増加、地域内における起業や地域資源を原料とした商品開発を促す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・観光プログラム開発、ビジネスインキュベーション支援等（委託） 11,550千円 ・拠点ワークショップづくり、イベント開催等（委託） 6,600千円 ○拠点整備事業 ・建築物本体工事 奥道北拠点整備 94,919千円 ・備品購入 奥道北拠点整備 5,940千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①本事業による移住者数の増（+29人） ②本事業による関係人口の増加（+6300人） ③本事業により開発された観光プログラム数（+18件） ④本事業により開発された商品数（+19件） ⑤本事業のメディア等掲載数（+36件） ⑥本事業による起業数（+9件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://okudohoku.com

事業概要：古丹別地区多世代交流・多機能型拠点施設整備事業

継続

申請者	北海道苫前町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	574,379千円 (528,793千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・地域住民が身近な場所で日常生活に必要なサービスを安定的に利用できる生活拠点として、暮らしを支える機能を一体的に確保・充実させ、高齢者をはじめとする住民の利便性向上を図る。 ・公共交通の待合機能、コミュニティスペース、シェアキッチン等を備えることで、日常的な利用や滞在を通じた住民同士の交流を促進し、地域コミュニティの形成・活性化につなげる。 ・観光情報の発信やイベントの開催等を通じて地域の魅力を内外に発信し、施設を核とした関係人口・交流人口の創出・拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 苫前町古丹別地区において、地域住民が身近な場所で日常生活に必要なサービスを安定的に利用できる環境を確保するため、多世代交流・多機能型の「小さな拠点」施設を新たに整備する。公共交通の待合機能や運行情報の提供により移動の安心を支えるとともに、コミュニティスペースやシェアキッチン等を活用した交流・活動の場を創出する。あわせて、地域情報や観光情報の発信を通じて施設の利用促進を図り、関係人口・交流人口の創出につなげる。					古丹別地区多世代交流・多機能型拠点施設整備事業 位置図  ・生活サービス機能 ～身近な場所に必要な生活サービスを確保し、住民の自立した暮らしを支援 ・公共交通結節・待合機能 ～公共交通の利用環境向上と、安心して移動できる生活基盤の確保 ・コミュニティスペース・シェアキッチン機能 ～多世代の交流や活動を促進し、地域コミュニティを活性化 ・児童・子育て支援機能（屋内遊戯スペース） ～子どもが安全に遊べる環境で、子育て世代の交流を促進 ・情報発信機能 ～地域・観光情報等の発信による来訪促進と、関係人口・交流人口の創出	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・施設建設工事（建築・電気設備・機械設備） 352,000千円 ・設備整備工事（施設（大型）備品整備、キャッシュレス決済システム、遊具設置、Wi-Fi設備） 159,793千円 ・外構・駐車場整備工事 10,000千円 ・施設備品（什器等）整備工事5,000千円 ・観光・イベント情報等発信拠点事業 2,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①古丹別地区の人口減少率の抑制（+1.90%） ②コミュニティスペースの利用者数（+5,340人） ③コミュニティスペースにおけるイベント開催回数（+78回） ④生活サービス機能の利用者数（+34,000人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	http://www.town.tomamae.lg.jp

事業概要：「ふるさと苫前」共創基盤による地域経済循環創出事業

新規

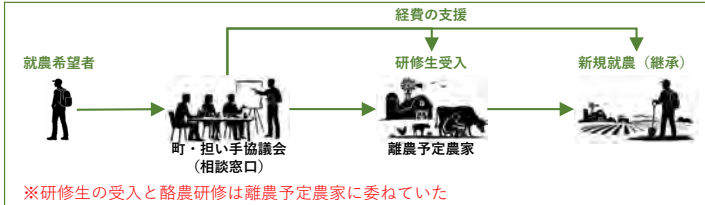
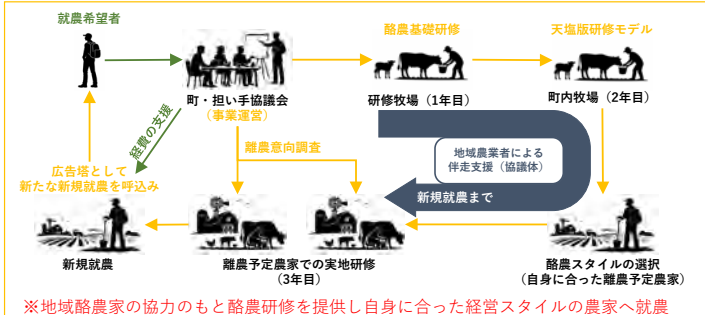
申請者	北海道苫前町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	143,924千円 (48,070千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・農林水産業や再生可能エネルギー等の地域資源を起点とした共創プロジェクトを創出し、商品・サービスの開発や事業化を通じて、地場産業の付加価値向上と稼ぐ力の強化を図る。 ・まちづくり会社を中核とした共創基盤のもと、地域内外の人材が実践的に関与できる環境を整備し、事業創出を通じた人材育成と関係人口の継続的な参画を促進する。 ・事業創出の過程で得られる就業・起業機会を活用し、段階的な役割付与によりUIターンや定住・定着へとつながる導線を構築し、地域経済の持続的な維持・拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 農林水産業や再生可能エネルギーといった地域資源を起点に、地域内外の人材が参画する共創プロジェクトを創出する。 まちづくり会社を中核とした共創基盤のもと、商品・サービスの企画開発や実証、事業化を伴走支援するとともに、関係人口や地域外人材が継続的に関与し、実践を通じて就業・起業につながる機会を段階的に提供することで、地域内に付加価値と収益が循環する体制を構築する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・ローカルベンチャー創出・事業化支援（委託料）17,919千円 ・共創プラットフォーム・関係人口形成推進（委託料）15,103千円 ・人材育成・人材循環促進（委託料）5,654千円 ・地域経済循環強化・収益化支援（委託料）8,734千円 ・地域共創エコシステム形成・モデル化推進（委託料）660千円						
主なKPI	①本事業を契機としてUIターンに至った人数（+4人） ②地域内事業への就業・起業・継続的事业参画に至った人数（+15人） ③地域共創プロジェクトへの継続参画人数（+120人） ④ふるさと苫前コミュニティアクティブ参画者数（+360人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	http://www.town.tomamae.lg.jp

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

事業概要：天塩版新規就農エコシステム構築プロジェクト

新規

申請者	北海道天塩町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 （カッコ内はR8年度事業費）	87,300千円 （33,300千円）
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・天塩町でしか学べない独自の研修プログラムと新規就農希望者を研修から就農（定着）まで一気通貫で支援する仕組みを構築することで、本町への新規就農の促進と基幹産業「酪農」の持続性の確保を目指す。 ・定着した新規就農者が、広告塔として本町へ次世代を呼び込む好循環サイクル（エコシステム）が生み出され、町の規模が縮小していく中においても、新たな活動や付加価値を生み出せる人材が定着してくことを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本町の基幹産業である「酪農」の新規就農者を確保し、経営マインドを持った酪農経営者を育成することで、畜産物の安定確保や農業人材基盤強化を図り、一次産業の強靱化・付加価値化を目指す。 天塩町でしか学べない独自の研修プログラムを構築するとともに、新規就農希望者を研修から就農（定着）まで一気通貫で支援する仕組みを官・民・地域連携のもと構築し、新規就農者に伴走支援する体制を整える。					【従来の新規就農までの流れ】 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・新たな新規就農エコシステムを構築する経費を補助（補助金）27,300千円 協議体設置200千円、離農意向調査400千円、経営継承支援500千円 経営分析3,000千円、システム構築3,000千円 技能習得プログラム作成13,500千円、募集PR6,700千円 ・農業研修生滞在宅改修（需用費）6,000千円					【新たな新規就農までの流れ】 	
主なKPI	①新規就農者数（＋1人） ②農業研修受講者数（＋5人） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL	令和8年6月公表予定
						※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	

事業概要：中頓別町女性・若者活躍推進事業 ～小さなまちの人口構造再構築を目指して～

継続

申請者	北海道中頓別町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	113,200千円 (41,700千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	女性と若者が地域で活躍し充実した生活を営むことが重要視されており、これが人口構造の再構築の基盤となると考えられています。具体的には、ワークライフバランスを推進し、企業や事業所が女性や若者にとって働きやすい環境を整えること、また、行政サービスを新たな視点で提供することが提案されています。さらに、住民と町出身者の活動をマッチングするプラットフォームを構築し、地域の活性化を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・町民の意識調査を基に、先進地調査や町民学習会を行い、地元の独自性を生かした課題解決を目指す。 ・放課後学習やオンライン診療、子育てサポートに関する実証を行い、仕組みを構築する。 ・雇用機会を拡大するため、企業誘致や起業支援の体制を整え、職員の研修を通じたスキル向上を図る。 ・また、町外出身者との交流促進を目的としたマッチングシステムを試行し、多様なワークショップを開催。プロジェクトの幸福度調査を実施し、町内外の交流促進と社会参画者の増加を目指す。 ・チーム運営の改善と地域住民のフォローアップに力を入れ、情報発信を強化することで、地域資源を活用した活動の支援体制を整える。					女性・若者に 選ばれる街 ○若者・女性の経済基盤の確立 ○家族の健康・教育の不安 ○仕事、趣味生活の充実 ○地域コミュニティの形成 取組① 地域で取り組むワークライフバランス 多様な働き方への柔軟な対応と 許容できる社会 男性の育児参加の増加 ● 可処分時間の増加 ● 仕事と生活の充実 取組② 育児の効率化・ 教育医療の充実 子育てに係る時間の効率化 教育・医療の制限緩和 ● 育児介護休・特別給付取得率 ● 従業員雇用者の満足度向上 取組③ 職業選択の拡大 企業誘致・事業承継 町内の経済活動資源の活用 綿密な関係人口の拡大 ● 事業承継・企業誘致 ● 新規雇用創出 取組④ 地域コミュニティの醸成 自主活動の充実と拡大 ● 企業との交流人口増 ● 企業版ふるさと納税 子育て・教育の不安解消 企業誘致・事業承継 女性・若者が活躍できる地域 社会全体の調和や幸福度を高め、より良い社会を作るための基盤となる 中頓別町・地域事業者の魅力度UP 出生率向上（自然増）＆社会増 人口構造の再構築	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○地域で取り組むワークライフバランス支援事業 ①先進事例勉強会経費（委託料）：3,000千円 ②新たな制度設計・準備調査経費（委託料）：3,000千円 ○育児の効率・教育の充実推進事業 ①オンラインシステムの運用管理経費（会計年度任用職員報酬等）：3,500千円 ②実証経費（習い事送迎・通院支援）（委託料）：5,500千円 ○職業選択の拡大（企業誘致・事業承継）支援事業 ①企業誘致等に伴う受入体制の構築経費（委託料）：2,000千円 ②事業承継・起業支援・地元企業の強化経費（委託料）：2,000千円 ○地域コミュニティの醸成支援業務① ・都市部等に暮らす出身者（20-40代）のマッチング経費（委託料）：4,000千円 ・人生100年時代のあそびづくり経費（委託料）：2,000千円 ・町民くらしの幸福（満足）度調査経費（委託料）：3,900千円 ・関係人口プラットフォーム改善経費（委託料）：2,000千円 ○地域コミュニティの醸成支援業務② ・地域の魅力をコーディネートするチーム改善経費（委託料）：3,000千円 ・活動の支援（フォローアップ経費（委託料）：4,000千円 ・活動支援の拠点施設運用管理会計年度任用職員（専任）報酬等：3,800千円						
主なKPI	①新規起業数（+10件） ②子育てサポートの利用数（+60件） ③町外に住む町出身者との交流人数（+80人） ④女性・若者（20～49歳）のU I Jターン数（+14件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp/bunya/54262/

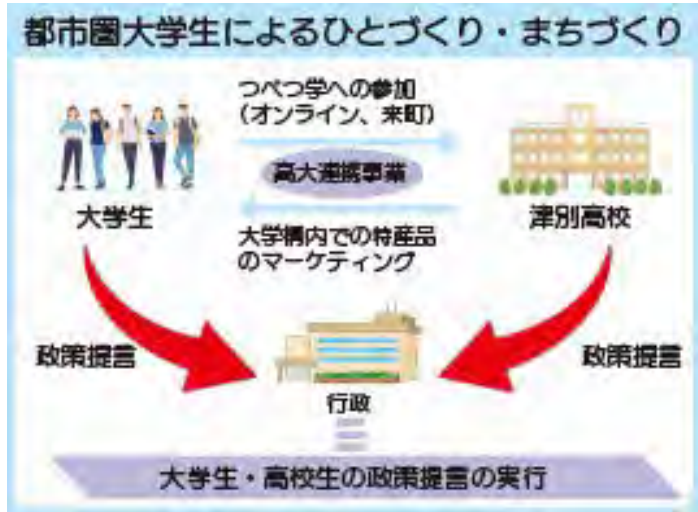
事業概要：美幌みどりの村再整備による滞在型観光推進事業

継続

申請者	北海道美幌町					初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,244,651千円 (879,845千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	本町における滞在型観光の拠点として、「美幌みどりの村」エリア一帯を再整備してエリアの価値向上に取り組み、地域資源を活用した新たな客層誘致を行うとともに、ワーケーションなど中長期的に滞在できる環境整備等の取組により、観光振興の強化による地域経済の好循環や地域産業の活性化へ繋げ、更なる観光誘客と交流人口、関係人口の増加を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 新たな観光ニーズに合致した小規模グループ／家族層、また都市部からのワーケーション利用客をターゲットに美幌みどりの村一帯を滞在型観光拠点として以下の内容を整備し、地域における観光消費額の向上を図る。 オンラインツールを用いた予約システムにより混雑の緩和を図り、顧客の満足度向上させるとともに、オンラインチャットツールの導入により顧客のニーズに素早く対応する。 ・グランピングエリアを新たに整備 ・キャンプ場の再整備（オートサイトエリア整備、バンガロー改修等） ・グリーンビレッジ美幌の模様替え						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建築物整備 建築物本体工事 488,910千円 インフラ整備工事 81,359千円 ・設備整備・用地造成 設備整備工事 265,663千円 ・備品整備 宿泊施設用備品 43,913千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+1.03億円） ②観光入込客数（+23,317人） ③美幌みどりの村一帯の宿泊者数（+4,007人） ④美幌みどりの村でのワーケーション利用件数（+12件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年1月公表予定

事業概要：都市圏大学生によるひとづくり・まちづくり事業

旧制度（推進）

申請者	北海道津別町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	7,500千円 (2,500千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	高校生と大学生が、イベント参加時や恒常的なSNS等で本事業の取り組みのPRを行うことで関係人口・交流人口の拡大を図る。 高大連携事業を通して、大学生と高校生相互にスキルアップを図り、次世代を担う人材育成を図る。 本事業を通して関わりの持った高校生と大学生が継続的に関係を持つことで、将来的なU I J ターン増加を図る。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 大学生が定期的に来町し、町外者かつ若者目線で町の調査研究をおこない、その成果を政策提言として行政および町内企業に提案する。 また、高大連携事業として、地元高校生は大学生の助言を受けながら町の現状や課題を調査し行政に政策提言を行うことで、自ら住んでいる地域を客観視する力やふるさとの未来について考える力を醸成させる。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○外部人材招聘に係る来町経費 ・現地調査（高大連携事業含む）に係る経費 ・報告会に係る経費 計 1,900千円 ○高校生と大学生のマーケティング実践に係るイベント実施費 計 500千円 ○報告会に係る費用 ・SNS配信料など 100千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域への移住者数（UIJターン数）（+13人） ②（仮称）つべつファン登録者数（+70人） ③津別高校卒業生の地元就職率（+7%）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL (交付金の具体的使途・実施体制及び 効果検証) https://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/choseijoho/chihososei/1702.html

繼續

申請者	北海道津別町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,045,192千円 (445,170千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	町内の民間特別養護老人ホームおよびデイサービスセンターの移転新築計画があり、移転にあわせて他の民間既存福祉施設とともに木質バイオマスによる熱エネルギーを24時間供給し、その熱を暖房・給湯に利用してもらう「地域熱供給」を行う。そのため、町は新たに地域熱供給を行う「エネルギーセンター」を建設する。 地域熱供給のエネルギー源として利用する木質バイオマスは、地域で利用価値の低い林地残材を使用することで森林資源の有効活用につながり、林産業の雇用創出といった更なる振興のほか、福祉施設にとっては値上がりを続ける化石燃料によるエネルギーを削減することにもつながり、脱炭素化・域外への資金流出削減を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・地域熱供給の基幹施設となる「木質バイオマスエネルギーセンター」の実施設設計及び建設工事を実施する。 ・原木・チップを貯蔵する場所を整備するため「貯蔵棟及び貯木場」の建設工事を実施する。 ・新たな「木材粉碎機」を導入し、利用価値の低い細かい枝葉等を農畜産用の敷料及び飼料に加工して販売を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・木質バイオマスエネルギーセンター施設設計及び建設工事 200,200千円 ・木質バイオマスセンター貯蔵棟及び貯木場建設工事 228,360千円 ・木質バイオマスセンター木材粉碎機設置工事 16,610千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①域外への資金流出削減額 (▲1.2億円) ②域内循環による効果 (+1.1億円) ③CO2削減効果 (▲3,536t-CO2) ④農畜産用の敷料及び飼料販売による枝条等の付加価値創出 (+512万円)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/soshiki/sangyoshinko/8/2/4500.html

申請者	北海道斜里町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	69,515千円 (21,037千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	地域ブランディングを推進し、主に首都圏を中心に若者や女性に訴求したプロモーション及びコミュニケーションを展開することにより、地域の課題解決につながる関係人口創出を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 暮らしの視点から地域の魅力を整理・発信することで、若者や女性、都市部人材を中心とした関係人口の創出や移住定住を促進するため、多様な関係人口ネットワークによる地域との優良なマッチングや関係人口向けパンフレット発行、地域ブランディングの財産(ブランドブック、デザイン等)を製作し、選ばれる地域づくりを進める。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ・ブランドブック制作（委託料） 3,000千円 ・ブランドデザイン業務（委託料） 1,900千円 ・関係人口創出支援コーディネート（委託料） 9,768千円 ・関係人口創出拠点施設管理（委託料） 2,600千円 ・首都圏シェアオフィス賃借料（借上料） 900千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光客入込数（+3万人） ②ブランディング関連SNS閲覧数（+41万ビュー） ③ブランディング認知度（インナー）（+0.8%） ④知床に1か月以上の長期滞在及び住んでみたい意向を示す20代30代の割合（+3.2%） ⑤知床でワーケーション、デュアルライフ、移住に関心のある20代30代の割合（+11%） ⑥ブランディング関連SNSフォロワー数（+8,500フォロワー）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	プロジェクトについて https://shiretokobranding.org/kank ei/ 評価について https://www.town.shari.hokkaido.jp/soshikikarasagasu/seisakusuisin/so ugooukeikaku/4068.html

事業概要：みんなで創る二地域居住推進のまちづくり事業

継続

申請者	北海道小清水町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	127,900千円 (66,100千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・親子で旅行しながら働ける環境や町の魅力あるコンテンツの提供に加え、地域住民との交流で“第2のふるさと”を目指す取り組みにより、二地域居住を推進していく。 ・人の流れをつくり交流することで住民の活力向上や町内事業者への経済波及に広げ相乗効果をもたらす。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 受け入れ体制の整備 ○町所有施設を子ども世帯用に整備および子どもを預かるための受け入れ体制の構築 【親子時間の創出（関係人口の拡大）】 ○農業や観光体験コンテンツやイベントの実施、ウェルネスプログラムで親子のコミュニケーションを円滑化しウェルビーイングを実現 【地域の魅力発信】 ○関係人口との双方向コミュニケーションのためSNSを活用した情報発信を行う						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・短期移住体験住宅の設置工事 15,000千円 ・移住体験住宅の備品整備 6,000千円 ・フェーズフリーキャンプの開催（補助金）13,200千円 ・ウェルネスプログラムの実施（補助金）8,800千円 ・移住者や来訪者向けHPの整備（委託料）19,800千円 ・SNS運用（委託料）3,300千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①二地域居住を含むUIターンの人数（+20件） ②フェーズフリーキャンプ参加者数（+900人） ③特設HPアクセス数（+15,500件） ④SNSフォロワー数（+600人） ⑤移住コーディネーター等への相談件数（+75件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） 令和8年6月公開予定 （効果検証） 令和8年7月公開予定

事業概要：中心市街地の活性化とウォーカブル・パークタウン構想事業

新規

申請者	北海道小清水町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	110,000千円 (30,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・中心市街地の機能集約（コンパクトシティ化）を進め、歩いてまわれる町の実現に向けたウォーカブル・パークタウン構想の策定に向けて地域住民と専門家、行政との対話を行う【未来会議】を設置し、中心市街地の魅力向上に繋げる。 ・商工事業者の設備投資の一部を補助し、中心市街地活性化が図られ、町外からの来町者からの地域外通貨獲得が促進される。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 民間ホテル事業者の参入申出を受け、従来より検討を重ねてきた“歩いて回れる町”【ウォーカブル・パークタウン構想】の実現に向けて町民と専門事業者、行政による合意形成及び検討協議のための組織を立ち上げ、事業推進の加速化を図る。また、町内事業者の設備投資を支援し、滞在者からの外貨獲得を後押しする。					ウォーカブル・パークタウン構想 中心市街地へ町の必要機能を集約し、歩いて回れる町へ 高齢者等移動困難者の移動が楽に 飲食店等への設備投資支援により市街地が活性化 民間事業者によるホテル整備 観光客が通過型から滞在型へ 外貨獲得機会の増加	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・ウォーカブル・パークタウン構想構築事業：中心市街地活性化と機能集約を検討協議する町民、専門家、行政の合意形成機関として「小清水未来会議」を設置し、「小さくても素敵なまち」の実現に向けた調査・検討を行い基本構想を策定するための（委託料）20,000千円 ・商業起業化支援・活性化事業：新たに空き店舗等を活用し事業を営む者に対して備品購入等を補助（補助金）10,000千円						
主なKPI	①地域観光消費額（+47,844千円） ②中心市街地での新規出店事業者（2件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） 令和8年8月公開予定 （効果検証） 令和9年6月公開予定

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

事業概要：生田原温泉拠点施設整備事業

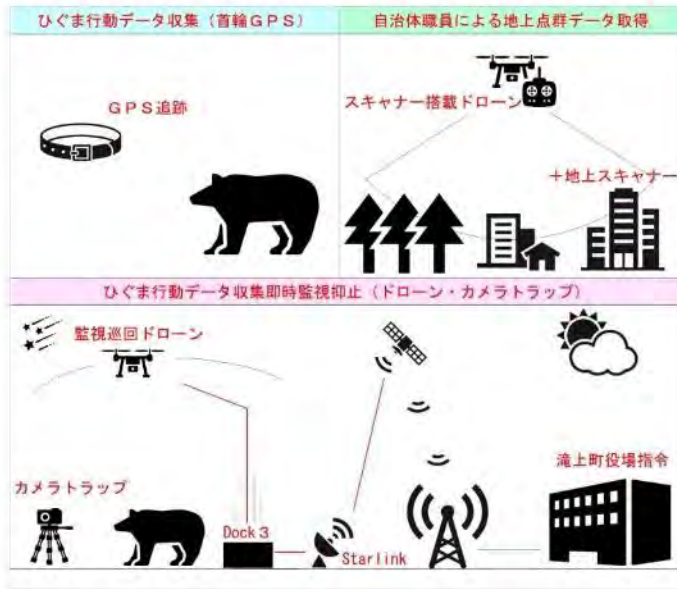
新規

申請者	北海道遠軽町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,000,000千円 (290,741千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	本事業は遠軽町の通過型観光から滞在型観光への拠点整備と位置付けており、遠軽町に点在する観光施設の観光ルートを再構築し、遠軽町全体の観光客増加を目指す。また、オホーツク地域全体の観光集客の増加に繋がる取り組みを今後検討することにより、現在ある観光資源を有効に活用し、レストラン・売店においては地場産品を活用したメニューの充実や地場産品の更なる販売促進を図り、地産地消を推進することで地域経済の活性化にも繋がる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 既存施設を再整備し滞在型観光の拠点整備と位置付け、遠軽町の環境資源や文化・自然とのつながりを重視し、観光ルートの再構築を行い、観光施設の集客数増加につなげる。 施設整備後は、施設内の段差が解消されることにより、誰もが安心して利用できる施設となり、利便性の向上・利用客の増加につなげる。また、地場産品を活用したレストランのメニューの提供・売店での販売を促進し、地産地消の強化を図る。 今後、生田原駅を中心としたインバウンドを含めた多様なニーズに対応できる観光施設の整備を進め、地域の活性化を図り、1次産業の基盤強化や新たな雇用に繋がる地域創生に取り組む。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建築主体工事 178,112千円 ・機械設備工事 81,697千円 ・電気設備工事 30,932千円 合計 290,741千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①遠軽町観光入込客数（+103,000人） ②遠軽町宿泊客数（+9,810人） ③遠軽町観光売上額（+7.4億円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://engaru.jp

事業概要： 森林×バイオマス×教育 地域の持続可能性向上プロジェクト

継続

申請者	北海道湧別町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	72,000千円 (25,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	本町の有する地方創生の実現における構造的な課題の解決に向け、多角的なアプローチをするための地域商社設立を目指す。既存の農・林・水・教育・観光・移住定住施策等の取り組みと有機的に連携させ、豊かな一次産業を支える森林資源の適切な管理活用により、地域経済の活性化や地域の持続可能性向上に寄与、「地域の人事部・広報部」としての役割も果たし、本町の取り組みを町内外に広くPRする。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ○森林×バイオマス×教育 地域の持続可能性向上事業 R8年度は前年度調査を踏まえてた森林管理体系基本方針・管理方針の検討、グリーン×ブルーカーボン創出に係る調査、連携検討等準備、地域人材教育プログラムの開発及びプレ開催を行い、ノウハウを蓄積し、事業化へ向けたPDCAサイクルを展開。地域商社設立に向けた地域事業者との情報共有・意見交換を実施し、連携体制の整備等を進める。						
	【R8年度事業 経費内訳】 実現可能性を探るための地域実態調査、地域人材教育の取り組み事例の把握・協議・調整に係る業務委託料 25,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①関係人口・移住者数 (+10人) ②林業・木材関係事業体への新規就業者数 (+5人) ③町産木材の町内での使用量 (+3m³) ④林地残材等の利用量 (+300 t) ⑤イベント・地域人材教育参加人数 (+60人) ⑥本町公式HPの訪問回数 (1か月平均) (+2,500回)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	(交付金の具体的使途・実施体制) https://www.town.yubetsu.lg.jp/ (効果検証) https://www.town.yubetsu.lg.jp/

申請者	北海道滝上町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	168,711千円 (97,587千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・首輪GPSデータをAI解析によるヒグマの行動予測、カメラトラップ等を活用した早期警戒システム、およびドローンの自律飛行等による即時監視・抑止を統合した次世代型防除基盤を整備する。 ・最新技術の導入により、ヒグマ出没の不安という移住・定住の阻害要因を排除し、地域住民が安心して屋外で活動し続けられる生活環境を創出し、地方創生の基盤となる「安全・安心なまち」を実現する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、AIとドローンという先端技術を導入することで、これらの基幹産業が直面する致命的なリスクを排除し、安全な生産環境を再構築することを主眼としている。AI行動解析モデルにより農地への侵入を事前に予測し、ドローンによる追い払いにより、食害による農業所得の減少を直接的に抑制する。また、林業現場や放牧地において、人的パトロールをドローンで代替し、リアルタイムでの安全確認を可能にすることで、基幹産業における労働安全環境の安全性を確保する。 ヒグマによる農作物被害や、林業現場における作業安全上の不安は、単なる経済的損失に留まらず、労働意欲の減退や後継者不足を加速させる構造的な要因であるため、安全な生産環境を再構築し、基幹産業である農業（酪農・畑作）および林業の持続可能性を確保する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・ヒグマ行動解析・システム構築事業（委託料）（9,500千円） ・A Iモデル構築・システム開発（委託料）（19,300千円） ・デジタル技術を活用した鳥獣被害対策研修事業（20,303千円）						
主なKPI	①農作物生産量（+190t） ②防除地域・排除地域でのヒグマ目撃件数（▲15件） ③渚滑川での釣り客（+290人） ④新規農業研修生又は新規就農者の確保（+1件）					URL ※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度6月公表予定

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

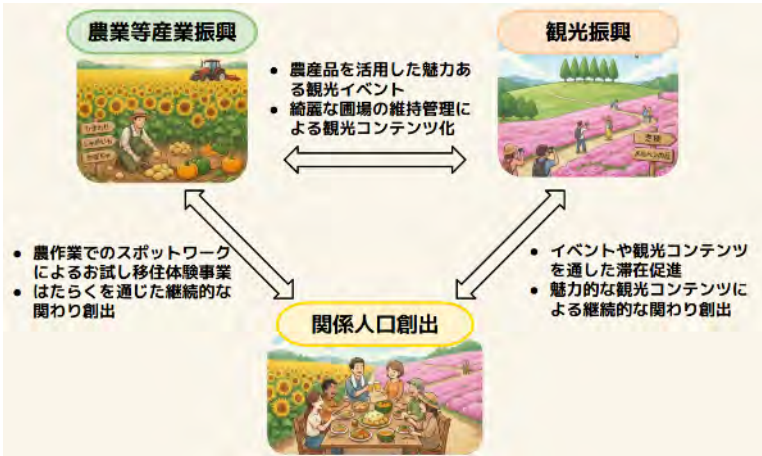
事業概要：東藻琴芝桜公園大規模改修事業

継続

申請者	北海道大空町						初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R11年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,067,478千円 (36,880千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	開園から48年の歴史を持つ大空町の観光拠点である東藻琴芝桜公園は、園内施設の老朽化が進み、バリアフリー対応や現代的ニーズに追いついていない状況である。大規模改修により魅力を取り戻し「映える景観」を復活させることで観光客を呼び込み、交流人口を増大させる拠点となるような整備を行い、地域全体の活性化を狙うとともに観光消費による経済波及効果や地元特産品との連携など地域資源との結びつきを強める。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 芝桜公園内の魅力を最大限に生かし、観光拠点として機能充実による誘客を促進するため、管理棟及びステージ、見晴らし台、東屋、キャンプ施設などの主要な施設の実施設計と新設工事を行う。これは「地方創生」の取り組みの一環であり、「来てもらい、繋がってもらい、支えてもらう」地域づくりへとつながる取り組みとして実施する。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業経費 ・新設管理棟建設工事 26,950千円 ・売店・釣り堀事務所新設 5,830千円 ・遊覧車発着場新設 1,100千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①入園者、視察者数（+33,000人） ②施設、設備利用者数（+8,000人）						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.ozora.Hokkaido.jp

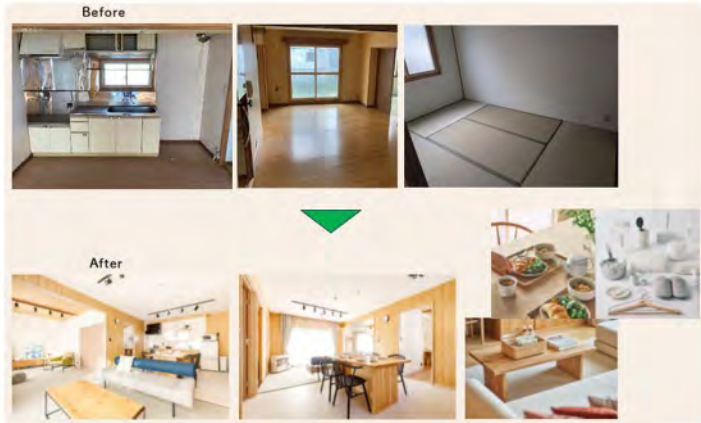
事業概要：働く×観光×交流によるまちづくり事業

新規

申請者	北海道大空町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	43,001千円 (14,001千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	本事業により、単なる観光客ではなく、地域で「働く」「滞在する」層を呼び込むことで、農業等の人手不足を緩和します。また、空港利用者を町内のイベントや景観、特産品へと誘導することで「素通り」を解消し、地域経済への波及効果を高めます。これらが相乗的に作用することで、人口減少下においても持続可能な産業構造と地域社会を構築します。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 1. 地域の魅力・価値の再構築と発信強化 女満別空港周辺自治体等と連携した路線拡大・利用促進プロモーションや、地元農産品・加工特産品のPR・販路拡大を行い、認知度向上と外貨獲得を推進する。 2. 柔軟な働き方の導入による労働力確保と関係人口創出 事業者向けにスポットワーク導入・定着の説明会を実施。さらに町外・道外から、2泊3日程度で来町し、短期滞在事業を展開。観光以上・移住未満の「関係人口」を創出し、将来的な労働力の確保につなげる。 3. 移住・定住への総合的支援 住まいと仕事のワンストップ支援を行い、スポットワーク等で町に関心を持った層の定着を後押しする。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 観光地整備誘客事業 ・地域ブランディング事業 12,000千円（調査費） 関係人口づくり事業 ・スポットワーク普及事業 2,000千円（委託費）						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①転入者数（+10人） ②年間観光入り込み客数（+3万人） ③年間商品販売額（+1.3億円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.ozora.hokkaido.jp

事業概要：移住体験住宅（お試し住宅）整備事業

新規

申請者	北海道大空町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	21,600千円 (10,600千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	利用していない教職員住宅等を移住体験住宅（お試し住宅）に整備し、短期滞在を促し、移住希望者を地域に呼び込む。移住者と企業に対し、雇用のマッチングを行い支援する。移住体験住宅（お試し住宅）を軸に、地域環境、活発な産業、安定した雇用を地域の特性を活かした地域活性化を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 移住体験住宅（お試し住宅）整備事業により、分断されていた「定住支援」と「雇用」をつなぐ起点とする。 本事業により、移住希望者の滞在が「体験」から「定住準備」へと転換され、数値として年間稼働率、就業体験率、定住転換率の改善が見込まれる。 この事業により、地域の課題である社会減を解消し、持続可能な人口循環の形成を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・住宅デザイン監修業務・住宅改修工事 13,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①移住者数（+125人） ②年間稼働率（+355%） ③利用世帯数（+44世帯） ④定住転換率（+135%） ⑤社会減（▲175人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.ozora.hokkaido.jp

申請者	北海道壮瞥町					初回採択回	令和7年度第1回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	296,860千円 (28,092千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	道の駅を核として周辺施設をリニューアルし、特産品の開発や積極的な情報発信を進めることにより、観光消費額の増加を図る。基幹産業である農業の収益力を高めることにより、1次産業従事者の所得向上と担い手確保を目指す。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 道の駅の改修による来訪者の増加及び雇用の創出を図り、まちの魅力度向上や地域産業の強化に寄与する。また、新たに道の駅の隣接地に開発された新商品や町の農産物等を販売するイベントで活用する多目的広場を造成し、まちの賑わい創出を図る。加えて、多目的広場は有事の際の応急仮設住宅建設用地等の機能を持たせることにより防災力の強化を図る。					【道の駅そうべつ情報館アイ機能向上事業計画 整備事業位置図】 実施計画期間：令和7年(2025年)～令和9年(2027年) 		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 ・特産品販路拡大プロモーション（特産品開発補助金）1,350千円 ○拠点整備事業経費 ・道の駅バックヤード機能拡充工事 10,000千円 ・多目的広場実施設計委託料 11,000千円 ○インフラ整備事業経費 ・町道右折車線整備工事設計 5,742千円							
主なKPI	①地域全体の消費額（+11億円） ②道の駅農産物直売所の売上げ（+1.5億円） ③道の駅新規雇用創出（+3人） ④年間観光入込客数（+72万人） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL	https://www.town.sobetsu.lg.jp/ch osei/gyosei/seisaku.html	
						※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL		

申請者	北海道白老町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	149,106千円 (15,348千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	白老町において、水産業は長年にわたり地域経済を支えてきた基幹産業である一方、近年は海洋環境の変化による漁獲量の減少により、生産基盤そのものが不安定化している。本事業では、既存の水産業と親和性の高い「閉鎖循環式陸上養殖」という技術を導入し、天然資源に依存しない新たな生産技術の確立を図ることで、水産業の裾野を拡張し、地域産業としての持続性を高めることを目指している。対象魚種についても、地域産業や食文化との関わりが深いホッケを実証例として選定し、既存産業との連続性を重視する。地域の基幹産業である水産業を核に、新たな技術を導入しながら産業構造の強化と多角化を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・実証から実装への移行：閉鎖循環式陸上養殖の実証成果を、地域が主体的に判断・活用できる段階へ移行させる。 ・安定生産と継続体制の確立：天然資源に依存しない生産モデルを構築し、知見を人材・組織・施設に定着させることで、持続可能な基盤体制を整える。 ・地域課題の同時解決：担い手不足、遊休施設未活用等といった地域における課題を一体的に解決し、行政主導から地域主体による自立的運営へ移行する。					閉鎖循環型陸上養殖「白老式モデル」：地域実装へのロードマップ 白老町は、遊休施設を活用した閉鎖循環型陸上養殖の社会実装を目指す。行政主導から地域事業者主体の持続可能な産業構造への転換を図る4カ年計画。 2026-2027年度：基盤構築と拠点整備  ワーキングチーム設立 推進体制構築、技術標準化 2028-2029年度：高度化と自立化への移行  公民館跡地、養殖拠点へ 施設再利用、試験飼育開始（ホッケ・マツカワカレイ）  運営標準化（技術支援組織） 専門組織設立、技術継承・効率化モデル  民間主体への事業継承 自立的運営体制へ移行完了（脱・交付金） 実証段階 事業化判断可能段階	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・ワーキングチームの運営 ・ワーキングチーム用試験養殖スペースの整備（委託料）13,027千円 ・実証魚種の追加及び飼育試験実施（委託料）2,321千円						
主なKPI	①水産関連分野における付加価値額（+4,700万円） ②閉鎖循環型陸上養殖の事業化達成度（+27段階） ③ワーキングチームの参画主体数（+147主体数） ④収益発生件数（+43件/年）					URL ※交付金の具体的用途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/docs/6279.html

事業概要：人と森林生態系との共存による産業創出と文化形成に向けた森の拠点施設整備事業

継続

申請者	北海道厚真町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	126,324千円 (114,818千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	建築物や人工的なものが現状では少ない約280ha（明治神宮の4倍）の町有林内に拠点となる施設を整備し、町民及び地域外の人材を呼び込み、森林と関わることで豊かさを創出する文化の創造と、森の中での新規事業を創出することで、森林との共存を基本とした地域経済の持続的な成長を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 施設において、主に町民が参加できる森林での作業と森林内での飲食を伴うイベントを開催し、環境の整備をしつつ楽しい時間を創出し、森での活動をベースとした町外向けのコンテンツを開発する。森林内で飲食店やサテライトオフィス利用を検討する事業者へ森での活動を試行してもらい、新規事業創出へとつなげる。拠点施設周辺に小規模で簡易な宿泊施設等の整備を計画し、拠点施設を核とした新規事業の創出を推進する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・森に関わるイベントの実施費用（委託料） 2, 200千円 ○拠点整備事業 環境保全林センターハウス新設 ・建築物本体工事 111,474千円 ・設計監督費 5,566千円 ・土地造成費 4,950千円 ・備品購入費 8,783千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①森林で実施される事業の売上額（木材の売上、イベント、宿泊費等）（+8,000千円） ②森林を活用した新規事業数（+3件） ③森林の来訪者数（+3,550人） ④持ち込み企画でのイベント開催数（+5件） ⑤町外企業の経営層の来訪者数（+18人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（森林活用に向けた基本計画） https://www.google.com/search?ie=UTF-8&oe=UTF-8&q=厚真町 環境保全林 （効果検証） https://www.town.atsuma.lg.jp/page/1203.html

事業概要：人材の新結合による厚真町イノベーション創生事業

新規

申請者	北海道厚真町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R11年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,669,850千円 (693,650千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・文化交流施設を中核拠点として、町外の人にとっては厚真町を知り人や活動と出会う「地域の入口」とし、町民にとっては家庭・職場に次ぐサードプレイスとして機能させる。ここで生まれる学び・交流・共創を通じて、地場産業の課題解決と新規事業創出を促進する。 ・町民の挑戦と地域内外の挑戦が結びつき、社会課題の研究・実装を通じて事業が生まれ、自走・成長して雇用を生む産業へ育つことで、人口減少下でも地域コミュニティと地域経済が維持され、挑戦の連鎖により地域活力が高まる状態を将来像として実現する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 新たに整備する文化交流施設を中核に、「人材の新結合」により地場産業の付加価値向上と担い手・雇用創出を図る。施設では交流・学び・共創を常設化する。ソフト事業として、子育て女性の働き方デザイン・プログラム、ローカルイノベーション推進（事業化・産業化支援、挑戦のコミュニティづくり等）、官民連携を実施し、地場産業の現場課題をテーマに、協業形成から実証(PoC)、事業化(売上化)まで伴走する。町道3路線・下水道整備により拠点の利便性・受入れ機能を確保し、交流・協業機会の損失を減らすことで、挑戦の創出から定着までの好循環形成に寄与する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・官民連携推進（負担金・補助金）3,000千円 ・ローカルイノベーション推進等（委託料）33,650千円 ○拠点整備事業 ・建築物実施設計＋本体工事 文化交流施設整備 873,000千円 ○インフラ整備事業 ・道路及び下水道整備事業 57,000千円 交通量の増加に対応した道路及び歩行者に配慮した歩道の整備を行う						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の人口・世帯数(+540人) ②コンテンツ新規参加者数(+210人) ③新規事業化数(+35件) ④協働プロジェクト数(+35件) ⑤新規事業粗利額(+2億円) ⑥新規事業売上額(+2.9億円)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年9月公表予定

事業概要：デジタル人材の育成確保と企業誘致・就労創出を連動させたスマートワーク推進プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	北海道安平町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	161,335千円 (56,732千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	デジタル人材の育成の考えを踏まえながら、子育て中の女性の就労が可能となる働き方の導入等により、仕事と子育てを両立し、安心して出産し子育てできる就労環境を提供すること。また、若年層が働きたいと思える就労場所の確保など「子育て・教育」環境の魅力化と新しい働き方を提供できる本当の意味での移住定住につなげる。 こうした取組みを通じて、デジタル技術を活用した便利で快適に暮らせるまちの実現を目指すもの。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 女性や若年層の活躍をさらに推し進めるため、子育てと仕事を両立することができ安心して出産し子育てできる就労環境の提供、若年層が働きたいと思える就労場所の確保、これら取組みを安平町の新たなブランドとして定着させるためのブランディングと町内外へのプロモーションを推進していくために必要な取組みを、「あびらスマートワーク推進プロジェクト」として展開し、推進していきます。 【R8年度事業 経費内訳】 ●スマートワーク産業育成事業及び企業誘致推進事業 ・インストラクター育成、個別企業商談などを実施 ・リスキリング事業（短期プログラム）（委託費）4,230千円 ・リスキリング事業（長期プログラム）（委託費）9,037千円 ・サテライトオフィス誘致・事業誘致推進事業（委託費）10,829千円 ●ブランディング推進事業及びシティプロモーション事業 ・町内デジタル放送の政策魅力発信、積極的な参加を促す町内へのインナープロモーション ・地方創生推進シティプロモーション事業（委託費）12,984千円 ・安平町ブランディング事業（委託費）14,768千円		
	リスキリングとは 労働者視点 デジタル化により新しい職業や仕事の進め方が大幅に変わる職業につくためのスキル習得 企業の視点 デジタル技術を使いながら価値創造できるよう、多くの従業員の能力やスキルを再開発する OJT(On-the-Job Training) ・社内の「いまある」部署の「いまある」仕事を通じて、やり方を覚え、スキルを獲得してもらう教育 リスキリング ・社内に「いまない」仕事、「いま、できる人がいない」仕事のための新たなスキルを獲得すること ツギノジダイ「リスキリングとは DX時代の人材育成になぜ必要？ OJTとの違いも」より引用 https://ombiz.abira.com/article/13978145  あびら町デジタル推進 あびらチャンネル ABIRA CHANNEL @ ABIRA 公認証		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域へのUIターン数（+30人） ②デジタル人材育成・確保数（+45人） ③企業進出相談件数（+45件） ④デジタル技術の町内事業者等への還元件数（+5件）		
	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	(交付金の具体的使途・実施体制) https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/kaijiroku/mirai/1753 (効果検証) https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/kaijiroku/mirai/1904	

申請者	北海道安平町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	34,865千円 (7,251千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・「地方創生2.0」に掲げる女性や若者にも選ばれる地域となるため、子どもから大人まですべての住民が「自ら考え、行動を起こす」、「こどもまんなか」な生涯活躍のまちづくりを実現する。 ・そのために、デジタルを活用した子どもの意見聴取等を進める中で、子どもからお年寄りまですべての世代の方が「つながる」ための支援を事業面、施設面双方から支援する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 「意見が言えない、聴いてもらえない」と感じている方が1割程度いる結果を踏まえ、「いつでもどこでも意見ができる・必ず届く」仕組みをデジタルで解決したい。また、町内全てのNPO法人が「世代間のつながり」と「もともと住民の方とのつながり」を求めていることに鑑み、つながりを求めている方の発掘及びつながりづくりの伴走支援しつつ、地域のだれもが利用できる学校（早来学園内の地域開放スペース）を活用し、より気軽に来て相談してもらえるためのコンシェルジュを配置し、不慣れな高齢者や子ども達の希望に合った施設利用の提案や伴走する。					全世代をつなぐ、生きがい支援 こどもまんなかでみんなにやさしいまちプロジェクト 「こどもにやさしい」から「みんなにやさしいまち」へ 世代を超えた新たなつながりで、さらなる社会人口の増加を目指す。 ▼教育課程支援（あびら探求タイム）▼交流拠点づくりや多世代による交流  こどもまんなかによる環境整備	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 （1）多世代のつながり創出に関する事業 ・社会教育活動プラットフォーム構築事業 2,900千円 ・教育課程支援事業（あびら探求タイム）300千円 ・コンシェルジュ業務委託事業 1,790千円 （2）こどもまんなか（子どもの意見聴取・尊重）に関する事業 ・意見聴取プラットフォームづくり事業 2,261千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①社会増減の均衡実現(+43人) ②70歳以上の転出者数抑制(+17人) ③子育て世代の転入世帯数（+6世帯） ④地域開放スペース利用団体件数（+300件） ⑤共遊事業により生まれた住民活動件数（+9件） ⑥子どもの意見聴取機会の実施件数（+9件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/kakushu-keikaku/1362 （効果検証） https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/kaigiroku/mirai/1904

事業概要：観光安全確保及び地場産業『稼ぐ力』向上プロジェクト

新規

申請者	北海道安平町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	17,254千円 (3,810千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・特産品開発・改良に関するコンテストを実施して地場産業の活性化を推進するため、付加価値の創出と地域の稼ぐ力を育む仕組みをつくる。 ・その仕組みにより移住検討者や移住者の不安要素である雇用を確保し、子育て世代に選ばれる産業基盤を築くことで移住定住の促進も狙う。 ・観光客増加に伴うオーバーツーリズム対策を講じ、住民と来訪者双方が安心して住み続けられる、訪れることができる環境を整備する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 特産品開発や高付加価値化等を推進し、稼ぐ力を育てていただくための準備期間として位置づけ、安平町ならではのブランドを構築する仕組みの立ち上げを進める。併せて、当町の観光の拠点施設である道の駅における生産者協議会による直売所運営を支援するための集荷配達支援事業を開始し、遠方の営農者の出荷ロス削減を狙う。また、地域住民と観光客双方の安全を守り、最大の集客が見込まれる菜の花シーズンにおける交通安全対策や混雑しない導線づくりを進め、観光回遊性と稼ぐ力の効果的な発現を推進する。					 観光客による私有地への立ち入り	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・特産品グランプリ審査会謝礼及び表彰エンブレムデザイン謝礼（報償費） 397千円 ・農産物直売所運営に係る集荷支援事業補助金（補助金） 113千円 ・公式パンフレット制作（委託料） 1,771千円 ・ナッジ活用交通安全等対策費（補助金、謝礼） 882千円 ・菜の花もぐもぐスタンプラリー実施（委託料） 647千円					 行動科学「ナッジ」の事例	
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光客数（+5.4万人） ②道の駅来訪客数（+1.9万人） ③農商工連携による6次産業化関連企業・団体数（+3件） ④地域資源を活用した特産品の商品化数（+6件） ⑤ふるさと納税寄付額（+16.4億円） ⑥菜の花開花時期における農村地域からの苦情減少件数（+3件）					URL ※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/kaigiroku/mirai/1923

事業概要：恐竜ブランドを活かした過疎地域のクリエイション（創生）プロジェクト

旧制度（推進）

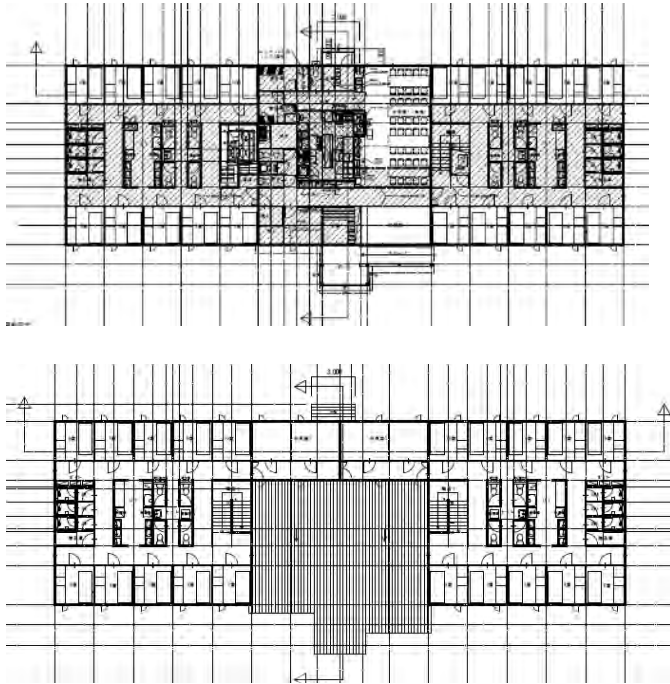
申請者	北海道むかわ町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	65,150千円 (26,448千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	2003年にむかわ町で発掘された「むかわ竜」を多くの人に発信し、関係人口・交流人口の拡大につなげ、地域経済の活性化を図る。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 貴重な地域資源である「むかわ竜」を最大限に活かし、体験型イベントや音声ガイドなどのデジタル技術を活用した周遊コンテンツの創出等の取組を通じて、「恐竜化石」と「デジタル技術」という他に類を見ないコンテンツから関係・関心人口の拡大を図り、過疎地域における持続可能な地域運営の確立を目指す。		
	【R8年度事業 経費内訳】 【主な経費】 ○むかわ町の地域資源としての恐竜・化石をPRするイベントを実施 ・イベント開催経費（委託料）17,264千円 ○関係・関心人口が来訪し、町内を周遊するきっかけとなるデジタル技術を活用した周遊コンテンツの実証実験 ・周遊コンテンツの実施経費（委託料） 7,923千円 ・周遊コンテンツに使用する音声ガイド開発経費（委託料）1,261千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①「恐竜のまち」プロモーション事業のイベント参加者数（+910人） ②周遊コンテンツの参加者数（+150人）		URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL http://www.town.mukawa.lg.jp/dinosaur/

申請者	北海道むかわ町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	30,000千円 (10,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・本町が持つ生活環境が充実している地域性、地域資源の豊富さなど、地域の魅力を発信することにより、「住みたくなる、育てたくなる、楽しめる」まちを目指し、さらにその先にある「住み続ける価値を生み出すまち」のブランドの確立に向け、子育て世代をターゲットに北海道鵠川高等学校の魅力化事業展開により、タウンプロモーション戦略の推進・実施を目指す。 ・プロのクリエイターと共にデジタルコンテンツを作成する、「特別カリキュラム」を鵠川高等学校に創設することにより、「先端教育に注力するまち」というブランディングと共に町外から子育て世代を呼び込む。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 北海道鵠川高等学校が取り組んでいる、生徒自らが地域課題の発見と解決方法を探る、探究学習「むかわ学」を発展・深化させ、授業では行うことの出来ない革新的な特別クリエイティブ講座」に取り組み、地域課題解決を牽引する地方創生人材の育成を図る。 また、楽しみながら成長する生徒の取り組みを映像化し、「むかわ学」の先端性を町内外の保護者・学生へ発信し、町の認知度向上とともに、入学者数の増加・子育て世代の増加を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 「特別クリエイティブ講座」の実施（クリエイターによる講義） ・専門人材派遣費用等（委託料）5,610千円 PRイベントの実施 ・イベント実施経費（委託料）4,390千円						
主なKPI	①北海道鵠川高等学校の入学者数（+9人） ②北海道鵠川高等学校のホームページアクセス数（+131万回） ③子育て世帯（18歳未満の子どもがいる世帯）（+10世帯）					URL	http://www.town.mukawa.lg.jp/5679.htm

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要： 地域定住・関係人口創出に向けた地域共生型高校生寮整備事業

継続

申請者	北海道平取町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	587,338千円 (573,148千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・区域外からの高校生受け入れを可能とする居住環境の整備を通じて、北海道平取高等学校の魅力向上と安定的な運営を図るとともに、地域における交流拠点の創出を通じて、関係人口の拡大および将来的な地域定住を促進する。 ・学生が不在となる平日の昼間等には、共用スペースを一般に開放し、地域の交流の場とすることを目的とする。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 【事業目的】町外からの進学希望者を安定的に受け入れ、平取高校の魅力化と存続を図るとともに、若者の定住や地域との継続的な関係づくり（関係人口の創出）を推進する。 【事業内容】町が主体となり、最大40名の受け入れが可能な地域共生型の高校生寮を新築整備する。寮には地域住民と高校生が日常的に交流できる共用スペースを設け、地域イベントやワークショップ等の活動拠点としても活用する。また、地域住民と高校生が共に学び合う地域プログラムや、卒業後の定住につながる帰郷プログラムなども併せて実施する。 【期待される効果】高校の生徒数確保と教育環境の充実により、町内唯一の高校の存続を図るとともに、若者が地域とつながりを持ち続けることで、将来的な定住や関係人口の拡大、地域の活性化につながる事が期待される。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業経費 平取町への高校生拠点施設設置 ・建設事業費 573,148千円 構造：木造 総建物面積：約902.42㎡ 建物構成：寮棟（男子10+10、女子10+10）＋共用棟（交流室2室含む） 室数：40室						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①域外生徒の卒業後の定住者数（+3人） ②域外からの寮見学者数（+32人） ③域外生徒の在寮者数（+36人） ④地域向けに寮の共用スペースを開放した日数（年間（+178日） ⑤共用スペースの地域住民の年間延べ利用実績(+318人)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年4月公表予定

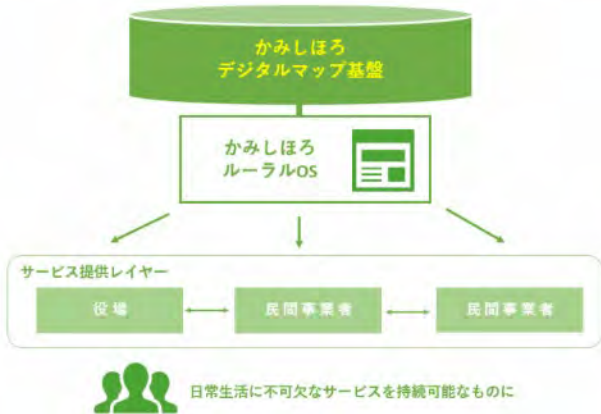
新規

申請者	北海道音更町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,523,207千円 (1,523,207千円)
事業類型	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフ 整備事業		
目的・効果	北海道・十勝を代表する観光資源に成長した道の駅おとふけを増築することで、更なる施設機能強化を図り、官民連携による賑わいや雇用を生み出す施設運営を安定的に持続させるとともに地場産品の付加価値向上を図るなど、ローカルイノベーションの基盤として地域の観光・農業の先駆的な振興に取り組む。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 増築事業を実施し、音更町、十勝管内を代表する魅力発信拠点としての機能を強化する。また各種のイベントを通じて町内外の人の交流の拠点として、多くの来場者が快適に休憩し、飲食や買い物を楽しむことで大きな経済波及効果をもたらす。 《増築後の道の駅おとふけの概要》 延べ床面積2,754.69㎡（794.05㎡増） 無料休憩飲食コーナーの拡張・イベント専用スペースの新設、空調・換気設備及び浄化槽設備の機能強化、サイクルステーション、サイクリスト向け情報発信コーナー、自転車走行帯路面標示等の設置						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建築物整備経費 899,162千円 増築棟建設工事費、既存棟改修工事費、工事監理費 ・設備整備経費 606,045千円 外構工事費（浄化槽、排水処理施設整備等）、工事監理費 ・備品整備経費 18,000千円 テーブル、椅子、音響機器等						
主なKPI	①地域への経済波及効果額（+8.5億円） ②道の駅の販売額（+2.1億円） ③道の駅の付加価値増加額（+1.1億円） ④サイクリスト入込客数（+1,625人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年3月公表予定

事業概要：かみしほろワークスタイル／アーティスト・イン・レジデンス推進事業

旧制度（推進）

申請者	北海道上士幌町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	87,007千円 (28,874千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	都市部からの人の流れを加速させ、関係人口を創出し、企業（起業）誘致と、将来的な移住を促すため、テレワーク・ワーケーションの受入体制を元地域おこし協力隊を中心に構築する。 ワークショップの開催により、これまで町と関わりを待たない層を呼び込む。 地域と都市部企業・個人が交流するきっかけをつくることで、新規ビジネス創出を図る。 PRイベントや助成により、テレワーク・ワーケーションによる来訪者を増加させる。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 新たな層の関係人口を創出し、都市部との交流を加速させることで、地域経済の活性化・地域の担い手育成を進めていくため、都市部企業の受け入れ体制及びスキームを構築する。また、アーティスト・イン・レジデンスや地域の空き不動産を活用した展覧会、子ども園留学など多様な交流プログラムも展開し関係人口の拡大を目指す。	   	
	【R8年度事業 経費内訳】 ①アーティスト・イン・レジデンスによる地域活性化 ・ワークショップ開催経費（委託料）：3,500千円 ・展覧会開催（委託料）：4,500千円 ・1家庭1アートPJ（委託料）：3,324千円 ・遊休不動産利活用：5,285千円 ②町内生産者（事業者）と都市部企業・人材のマッチング ・逆参勤交代（委託料）：2,200千円 ・Farm to table上士幌の実施（委託料）：2,000千円 ・副業兼業マッチング：2,000千円 ③テレワーク・ワーケーションの推進 ・PR関連経費：2,065千円 ・こども園留学（委託料）：4,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域へのUIターン数（+15人） ②アーティストinレジデンス作品数（+22点） ③シェアオフィス利用者数（+200人） ④都市部企業・個人と町内事業者のコラボプロジェクト（+5件）	URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL	https://www.kamishihoro.jp/page/00000224

申請者	北海道上士幌町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	150,000千円 (50,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・官民のサービス提供レイヤーが接続する「かみしほろデジタルマップ基盤」を構築し、域内の位置・座標情報のフォーマットを定義するとともに、官民が持つオブジェクト位置データの蓄積を行うことで、各サービスユースケースにおいてニーズの高い位置情報をシームレスに流通させ、従来の官民サービスの拡張・効率化・コスト最適化を行い、域内のサービス担い手不足の課題を解決するとともに、これまでにない新たな価値の創出を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 官民のサービス提供レイヤーが接続することができる「かみしほろデジタルマップ基盤」を構築し、官民の各サービスユースケースにおいてニーズの高い位置情報を統一フォーマットでシームレスに流通させ、従来の域内サービスの拡張・効率化・コスト最適化を行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○かみしほろデジタルマップ基盤構築事業 ・基盤管理経費：5,500千円（委託料） ・外部サービスとのAPI連携構築経費（3件想定）：14,025千円（委託料） ・調査設計経費（実証調査含む）：15,450千円（委託料） ○サービス対象オブジェクトに対する地理的座標DB化事業 ・データ収集、クレンジング経費：8,800千円（委託料） ・データ搭載経費：6,225千円（委託料）						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①人口減少割合の抑制度（改善度）（+0.5ポイント） ②位置・座標データのトランザクション数（+1,840件） ③位置・座標データ登録数（+5,900件） ④連携サービス数（+8件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.kamishihoro.jp/page/0000224

繼續

「かみしほろ まち全体でSDGsプロジェクト」の概要

『真の』地方創生 SDGs

- 未来につながる持続可能なまち-
- まちに関わる人々の幸福向上-

← 推進体制としてつくり出すべきもの →

まちを軸に 地方創生SDGs	市民や関係者も含めた まち全体のSDGsへの取組	まち全体でSDGsに対する意識を育てる
--------------------------	---------------------------------	----------------------------

プロジェクトの目的

SDGsに係る内容の見える化、わか文化に取り込む。

「かみしほろ まち全体でSDGsプロジェクト」全体図

基幹：運用局
専任：R7～8年度開始

主に個人の取組

- MUGO（MUGO）
アップグレード R7+
- SDGsポイント R6-4
- SDGs普及教材
- SDGsゼロカーボンマスター R6.5+
- SDGSサイト（パンフレット版） R7
- 市内SDGsイベント開催 R6+
- カンパリ サイズ展開 R6-7

主に共助的な取組

- システム連携窓口
- コーディネート

この取り組みを通して達成を目指す目標

SDGsの意識・行動動別 施策相關関圖

- 個人レベル活動
- マニフェスト
- SDGsな層(中間層)
- SDGsながなか行きたまはー計画
- 全市域内機能

事業概要：農業体験×地域交流・定住移住二地域推進プロジェクト

継続

申請者	北海道上士幌町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	35,452千円 (11,866千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	生活体験住宅を整備することで、移住・二地域居住を推進し、都会から地方へ人の流れを創出する。 上士幌町農協や農家の方々と調整し、「農業ボランティアバイト×関係人口企画」といった新たな仕組みを開始し、若者を上士幌町へ移住・定住するきっかけを作り、移住者を増加させることで人口減少をくい止める。 上士幌町の特徴的な取り組みを首都圏で行われるイベントにて情報発信することで、関係人口の裾野を広げ、定住人口増加を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 上士幌町は、移住・二地域居住を促進するため、若者や女性をターゲットに都市部でのPR活動を強化し、町の魅力を広めます。生活体験住宅の整備と情報発信を通じて、テレワークや子育て環境を提供し、関係人口の深化を目指します。また、農業ボランティアバイト企画を実施し、大学生らを対象に地域交流を促進、将来的な移住者となるきっかけを提供します。これらの施策により、移住希望者や関係人口の増加を図ります。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・農業ボランティアバイト企画募集事業 (じゃがいも等の収穫ボランティアバイトを町外の大学生・専門学生を中心に募集し、地域交流企画を実施する) 印刷製本費：650千円 ・使用料：300千円 消耗品費：100千円 ・事務費：50千円 広告宣伝費：350千円 委託費（PR動画作成等）：1,470千円 ・生活体験住宅整備費用 (移住・二地域を検討される方向けの生活体験住宅を整備する。) ：5,346千円 ・首都圏PR事業（首都圏で新たにイベントを開催・参画する） イベント開催経費（補助金）：3,600千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①上士幌町への移住・二地域居住者数（+20人） ②移住相談件数（+100件） ③生活体験体験モニター参加者数（+115人） ④シェアオフィス利用者数（+250人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.kamishihoro.jp/page/0000224

申請者	北海道上士幌町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	35,304千円 (11,951千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	欧米諸国は主流となっている「デスティネーションマーケティングプラン（DMP）」を策定し、世界基準のデスティネーションマーケティングを進めることで、課題である効果的な観光プロモーションによる認知度の向上、観光資源の高付加価値化を解決し、インバウンド観光客及び観光消費額の向上に寄与する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 DMP本試行版を策定、前年度製作した映像素材を活用したプロモーションの開始、また、次年度に予定するサイクリスト受入環境整備を実施するための設計を行う。前年度に整えた基盤を活用し、国外へのプロモーションの開始、観光資源の高付加価値化のに向けた準備を行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 海外顧客セグメント（属性）分析等（前年度不足分）を実施するとともに、その結果とDMP簡易試行版を踏まえて、DMP本試行版の策定を行う。 ・DMP策定業務経費（委託料）：2,992千円 国内外に向けて本町の魅力を視覚的に伝えるため、高画質のプロモーション映像を製作するとともにSNSでの配信を行う。 ・映像製作及び配信業務経費（委託料）：4,977千円 「自転車活用推進計画」を基に、町道にナショナルサイクルルートの案内標識等を整備するための設計業務を行う。 ・サイクルルート案内標識等整備設計業務（委託料）：3,982千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①インバウンド観光客消費額（+5,956万円） ②町内観光消費単価（国内外）（+1,000円） ③SNS7日間動画総再生回数（+3.6万回） ④町内観光入込客数（国内外）（+10万人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.kamishihoro.jp/page/0000224

事業概要：「ふるさと住民登録制度」を核としたEC販路拡大と地域雇用創出事業

新規

申請者	北海道上士幌町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	34,440千円 (14,480千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	1. 「誰もが住み続けたい持続可能なまち」の実現、「一人ひとりが充実した暮らし」ができるように、その生活に必要な資金を町内で稼げるプラットフォームを構築するとともに、上士幌町との社会的な繋がりを持つことで、心も体も満たされる環境があるまちを目指す。 2. 上士幌町内の事業者が全国に対してECサイトにて地場産品を販売することで売上向上ができ、かつ「ふるさと住民登録制度」による担い手確保により、生産力をあげることで地域経済を活性化させる。 3. 2030年の「ふるさと住民登録制度」プレミアム登録数550人を目指すことで、町内での消費活動が活発な経済力のあるまちを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ふるさと住民登録制度「プレミアム登録」要件である担い手活動と、登録希望者と担い手活動内容のマッチングに係るプラットフォームの整備。地域の担い手を確保しつつ、同時に上士幌町公式ECサイト構築し、地場産品の全国への販路拡大を図る。ECサイトのPR実施による売上向上。またふるさと住民登録制度のPR活動も行い、担い手になりうる登録者数を増加させる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 (1) 仕事・担い手活動とプレミアム登録希望者や様々な人に繋げるプラットフォームの構築（委託料）：2,870千円 (2) 地場産品の販路拡大とSNSによる魅力発信、魅力のブラッシュアップ事業 ・ECページ制作費・運営費（出店説明会等含む）（委託料）：5,090千円 ・販売促進PR費（広告費）：4,730千円 (3) 上士幌町公式ECサイトと「ふるさと住民登録制度」のプレミアム登録拡大のためのPR活動 ・ECサイトのPR、「ふるさと住民登録制度」普及パンフレット・チラシ作成にかかるデザイン費・印刷製本費：1,790千円 （パンフレット：15,000冊、チラシ：10,000枚）						
主なKPI	①上士幌町公式ECサイト売上高（+9,000,000円） ②ふるさと住民登録制度 プレミアム登録数（+250人） ③担い手活動数（+750件） ④人口の社会増（+39人）					URL	https://www.kamishihoro.jp/page/0000224
※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL		

事業概要：陸空共同配送拠点整備事業

新規

申請者	北海道上士幌町					初回採択回	令和8年1月募集	
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	198,085千円 (8,085千円)	
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	・町内への荷物を集約する物流拠点を整備することにより、域内の共同配送を推進する ・一部条件不利地域への配送にはドローンを活用し、市街地におけるトラック配送のさらなる効率化を図る ・ドローンを活用した観光コンテンツや観光客向けの新たな配送サービスなどを構築し、外部からの集客を図る ・フェーズフリーの観点で、平常時から町の入り口である道の駅からの物流網を構築しておくことで、災害時の配送ルートを構築する							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 町、物流事業者、町内荷主企業が参画する「上士幌町新スマート物流推進協議会」で行った調査にて、配送ドライバーに対する荷物量の増加、ドライバーの高齢化、若年層流入の少なさなど、町内における物流課題が判明した。これらの課題が存在する中で町内の主要インフラである物流網を維持するため、荷捌きスペース、荷物情報管理のための事務所スペース、配送用のドローン保管庫、ドローン離着陸ポート、ドローン飛行の遠隔監視室などが一体となった陸空共同配送拠点を整備する。加えて、地域DMOと連携し、ドローンを活用した新たな観光コンテンツや配送サービスなどの構築を行うことにより、施設を多面的に活用する。					市街地 各社による配送 物流事業者A社 物流事業者B社 物流事業者C社 道の駅かみしほろ 一部ドローンを利用した共同配送 農村地区		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・施設基本設計、施設実施設計 8,085千円							
主なKPI	①人口社会増数（+54人） ②共同配送荷物取扱数（+2,820件） ③ドローン配送満足度（+90%） ④ドローンフライト数（+1,095回） ⑤サービス利用回数（かみしほろスマートPASS連携サービス）（+600回） ⑥新規コンテンツ・サービス売上（+3,240円）					URL	https://www.kamishihoro.jp/page/0000224	
※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL								

事業概要：鹿追町瓜幕自然体験留学センター新築工事業

継続

申請者	北海道鹿追町、北海道					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R12年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,180,056千円 (356,128千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・瓜幕地域の「移住・定住」に大きく貢献してきた「自然体験留学センター」を新築し、自然体験留学制度を継続していくとともに「移住定住の入り口」として効果的に活用し、新たな関係人口や交流人口の拡大、創出を築き、地域の活性化を推進する。 ・施設の完全ZEB化を実現し、環境に配慮した施設で子供たちへの環境への関心を深める。 ・自然体験留学制度を効果的に実施していくため、センター周辺の道路環境も合わせて整備し、充実した体験を提供する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 築50年が経過し老朽化した「自然体験留学センター」を新築し、地域の象徴的な取り組みである「留学制度」の継続及び推進を図るとともに、ZEB化により環境に配慮された施設として整備することで、脱炭素の取り組みの象徴的な建物とする。また、併せてセンター周辺の道路整備を実施することで利便性の向上や積雪期間でも円滑な課外活動を実施することのできる環境づくりを行い充実した体験を提供する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建築物・建築物本体工事 176,903千円 ・建築物と不可分な設備工事（電気・機械設備） 104,035千円 ・外構工事 36,190千円 ○インフラ整備事業 ・道路整備事業 9,000千円 留学センター接続部の縦断勾配を緩和し、安全な交通の確保を図る ・農村整備事業（農道・集落道整備事業）30,000千円 路肩の拡幅改良や舗装を実施し、留学生が通う小・中学校や自然体験農場、ジオパークといった屋外活動の拠点への安全なアクセスを確保する。						
主なKPI	①留学制度利用に関連した定住・移住者数（+15人） ②自然体験事業の充実化による事業の実施(+4事業) ③留学センターZEB化による自家消費率（+100%） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制及び効果検証） https://www.town.shikaoi.lg.jp

事業概要：「農業王国めむろ」ブランドを活用した稼ぐ観光振興プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	北海道芽室町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	97,540千円 (23,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	・本町の基幹産業である農業ブランド「農業王国めむろ」の地域ブランド化を進める ・2024年に予定されている日高山脈襟裳国立公園化を「新しい稼ぐ観光事業」で活用する ・観光拠点である新嵐山スカイパークにアウトドアを核とした事業を展開する ・地元住民向けの農業ツアー等により地元住民を巻き込んだ「農業王国めむろ」の地域ブランド化を進める		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本町の基幹産業である「農業王国めむろ」ブランドを稼ぐ観光事業に活用するとともに、日高山脈襟裳国立公園の国立公園化を観光コンテンツに活用し、新たな観光プログラムの構築、観光拠点施設の魅力向上、デジタル技術を活用したプロモーション、地元住民を巻き込んだ地域ブランド化を行い、新しい稼ぐ観光として町の稼ぐ力の向上を目指す。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・道外プロモーション（物産展出展等） 2,000千円 ・地域おこし協力隊が起業したNPOと連携したプロモーション委託料：8,000千円 ・アウトドア事業強化（案内機能強化） 3,000千円 ・トップセールスに係る随行旅費 300千円 ・友好都市交流におけるPR 1,600千円 ・地元農産物を活用した新商品や新メニューを開発への支援補助金：300千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①観光消費額（+1億円） ②「農業王国めむろ」ブランドを活用した観光プログラム・農業プログラム体験者数（+1,100人） ③道外プロモーション実施回数（+5回） ④新商品・新メニュー開発件数（+5件）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL
			令和8年6月掲載予定

申請者	北海道更別村	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	96,900千円 (32,366千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	目指す将来像＝更別村版共助社会構築事業 過去の更別村では皆が一つの「円」で共同意識が強く、苦労も多い分だけ近隣の人々との密接なつながりがあった。しかし、現在ではライフスタイルの多様化により選択肢が増え、それぞれが小さな「円」（縁）に閉じるように生活をしている。高齢者をはじめとした住民が生活に不安を抱くことになってしまっているため、必要に応じてつながり合うことのできる適度な関係性を結び直し、「100歳までワクワク 世代を超えてみんなでつながり合う幸せな地域」の実現を目指す。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 多世代へのコミュニティナースの普及・定着 村民のウェルビーイングプランの実現等を通じて、社会活動へ関与する人を増やす。村民コミュニティナースが日常的に村民同士で助け支え合えるように定着を図る。 多世代交流事業 日常的に村民が集まり・村民同士が交流できるよう、事業運営・改善を通じて村内にあった多世代交流事業の定着を行う。 関係人口の増加事業 北海道内外からのインターン生や視察等研修の受け入れ、道内外での講演の実施等を通じて、更別村の魅力、更別村の取り組みを周知、受け入れ、関係人口の増加を行う		過去の更別村 ・皆がひとつの「円」で共同意識 ・苦労も多いが人々と密接な繋がり 現在の更別村 ・選択肢が増えそれぞれ好みの「円」に ・高齢者は生活に不安を抱えている 未来の更別村 ・コミュニティナースとデジタルによりそれぞれの「円」を大切にしつつ必要に応じて繋がり生活の不安が解消 コミュニティナース
	【R8年度事業 経費内訳】 ・コミュニティナース普及・定着活動委託費：25,526千円 ・多世代交流事業委託費：5,760千円 ・関係人口の増加事業委託費：1,080千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の人口・世帯数（+9人） ②住民のウェルビーイングアンケートの「健康状態」の指標の増（+6ポイント） ③商店街でのウェルビーイングプランの実現数（+30件） ④村民コミュニティナースの登録者数（+135人）		URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL https://www.sarabetsu.jp/gyosei/seisaku/sogo/supercity/

事業概要：村内外から人の流れをつくる交流促進事業

旧制度（推進）

申請者	北海道更別村	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	49,600千円 (21,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	若い世代を中心にあらゆる世代の村内外の人々が『出会い』『交流し』『居場所ができること』で人の流れの創出を目指す。 「村内外から人の流れをつくる出会いと交流事業」により特別な人間関係を結び交流を促進する。 「村内外から人の流れをつくるまちづくりエンターテインメント事業」により先進デジタル技術の活用の知見と出会いを創り起業・創業につなげる。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ■村内外から人の流れをつくる出会いと交流事業 ①更別村の特色のある料理づくりなどを通じた特別な人間関係の構築事業 ②更別の既存ストックの利用方法の転換を行い魅力的な場所や交流機会の創出事業 ■村内外から人の流れをつくるまちづくりエンターテインメント事業 ③先進デジタル技術を用いたエンターテインメントを介した新しい出会いの創出と知見の深化事業		
	【R8年度事業 経費内訳】 ①・料理イベントのPR及び実施費用：3,600千円 ・村の特産品を使ったメニュー開発のPR及び実施費用：2,100千円 ・更別村のPRとイベント周知に関する費用：1,000千円 ②・官民双方の村内施設や村内で提供するサービスの使用方法の宣材動画に関する費用：400千円 ・村内飲食店等へのSNSの使い方講座のPR事業:500千円 ・リアルとオンラインで実施する村の未来を考えるデジタルスナックのPR及び実施費用：3,700千円 ③・ドローンの紹介および体験会のPR及び実施費用:5,200千円 ・VR美術館のPR及び実施費用:4,500千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①当事業の関係人口構築による新規移住者数（+9人） ②更別村の宿泊観光入込数（+33,133人） ③当事業による更別村の公共施設の施設予約件数（+90件） ④交流事業への村内外からの参加者数（+165人）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL https://www.sarabetsu.jp/gyosei/seisaku/sogo/supercity/

申請者	北海道更別村					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	33,000千円 (9,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	利活用の汎用性が少なかったスイートコーンの加工品残渣を使い、高温対策タイプの『バイオスティミュラント』の試作実証事業を実施し、製品化して村内農家に普及することで、更別村産農産物を安定生産・供給維持することが出来るとともに、農家の農業所得の向上を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地元企業であるJAさらべつと『バイオスティミュラント』を研究開発している株式会社AGRI SMILEが高温対策タイプの『バイオスティミュラント』を共同開発する経費の助成						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 圃場試験（補助金） 遺伝子発現解析～5,500千円 圃場試験分析～2,700千円 一般管理費～800千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①農業生産物（畑作4品）の過去15年出荷額からの増加額（+1.56億円） ②高温・低温・乾燥等の気候変動対策及び資材高騰対策に資する機能を持った『バイオスティミュラント』の製造販売数量（+7,335本） ③利用農家戸数（+45戸）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.sarabetsu.jp/gyosei/seisaku/sogo/supercity/

事業概要：更別村「ライフ・アグリ・コネクト」産業・健康持続化推進事業

新規

申請者	北海道更別村					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	218,400千円 (91,800千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	スマート農業の推進により省力化と高付加価値化を図り、農業の担い手不足という課題の解消を目指とともに、農業のイメージ転換と地域ブランド力の向上という効果を生み出す。農業では生産性向上と担い手の誇りを、医療では患者と向き合う時間と質の高いケアを生み出すことになる。蓄積されたデータはEBPMを可能にし、将来の需要変化にも柔軟に対応できる地域運営を支える。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 更別村は大規模農業地域として高い生産性を有する一方、労働力不足が課題としてある。農業分野ではAIやロボット技術により馬鈴薯収穫工程等の省力化・高度化を進め、データ活用型農業への転換を図る。					 ポテトハーベスターの 作業員の減少	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・ポテトハーベスターへのA I 搭載選別機実装及び生産管理自動化事業（助成金）73,800千円 ・ロボット遠隔監視準備事業（助成金）18,000千円						
主なKPI	①農林水産出荷額の増（+3%） ②農機の導入数（+5台） ③総合的な患者満足度（+0.3ポイント） ④治療継続率（ドロップアウト率の低減）（+3%） ⑤予約忘れ・未受診率の改善（10%からの減幅）（▲1.5%） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.sarabetsu.jp/gyosei/seisaku/sogo/supercity/ ※採択後、7月頃を目途に上記URLを更新予定

事業概要：北海道スペースポート整備事業

継続

申請者	北海道大樹町						初回採択回	令和４年度第１回募集
事業計画期間	R4-R8年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,320,000千円 (0千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	世界のロケット開発・製造企業が人工衛星搭載ロケットの打上げを実施できる射場機能を整備するとともに、スペースプレーン実験機や小型ジェット機等の受入れを可能とするため滑走路を延伸し、航空宇宙分野の事業活動に必要な基盤を地域内に形成する。これにより、ロケット・小型人工衛星・ドローン等のロボット、衛星データ利活用、宇宙関連部品製造などの関連企業の立地・参入を促進し、企業間連携や実証・研究開発の場を創出することで、新規雇用や投資の拡大、域内調達の増加を通じた地域経済の活性化、ならびに視察・ビジネス来訪等の交流人口の増加につなげる。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 当町の地理的特性・立地条件を活かし、人工衛星搭載ロケットの打上げに対応したロケット射場（LC1）を整備するとともに、打上げ前作業に必要となる組立棟等の関連施設を整備する。あわせて、スペースプレーン実験機や小型ジェット機等の受入れを可能とするため、既存滑走路の延伸整備を実施し、宇宙関連産業の実証・運用に資する拠点機能の強化を図る。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○施設整備等の内容 組立棟の整備工事等 0千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①航空宇宙関連企業の進出数（+30社） ②航空宇宙関連雇用創出数（+300人） ③見学者・視察者等の数（+38,000人）						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和８年６月公表予定

事業概要：旧利別小学校跡地子育て支援施設等整備事業

新規

申請者	北海道池田町					初回採択回	令和 8 年 1 月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,017,665千円 (649,942千円)
事業類型	ソフト 事業		拠点整備 事業	✓	インフラ 整備事業		
目的・効果	・旧利別小学校跡地を活用して整備する本施設は、子育て支援機能に加え、民間事業者が実施する不登校のこどもの居場所支援機能を併せ持つ点に大きな特徴があり、子育て支援施設とこどもの居場所支援を同一拠点で整備・運営する取り組みは、全国的にも例の少ない先導的な取り組みとなる。全国のモデル事業として、横展開を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 閉校した旧利別小学校跡地を活用して、季節や天候に左右されず、こどもたちが安心して遊べる屋内型の施設整備を行う。遊戯エリア、発達障がいなど支援が必要なこどもや保護者へのサポートができるエリアには、子育て中の親子が気軽に集うことができる。このほか、保護者の相互交流や子育ての不安や悩みを相談できるこども家庭センター及び地域子育て支援拠点のエリア、民間事業者が実施している不登校のこどもの居場所支援機能エリアや高齢者やボランティア団体が運営することも食堂や放課後サロン（こどもの居場所）などの多世代交流エリアを併せ持つ施設を整備する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建築物本体工事・外構工事 649,942千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①出生数（+9人） ②育児相談利用者数（+150人） ③地域子育て支援拠点事業の利用者数（+250人） ④施設の年間利用者数（+2,800人） ⑤町外利用者数（+280人） ⑥本施設を契機とした町内移住者数（+9人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.hokkaido-ikeda.lg.jp/kodomo/kosodateshien/

申請者	北海道本別町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	212,012千円 (152,698千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・商店街の空き店舗を利活用し、サブリース事業を実施することにより、中心市街地の活性化や新たな事業の創出を図る。 ・地域産品をブランド化し、高付加価値化することで、地域内に還元される利益を増やし、経済の好循環を実現させる。 ・本別公園に、SDGs体験プログラムやオートキャンプ場等の新たなコンテンツを構築することで、新たな層の利用客を呼び込むことが可能となる。 ・地域内で使える共通ポイント制度を構築することで、地域内における消費行動を促進し、地域経済の活性化を図る。 ・取組について地域外にも広く発信することで、地域外や都市部の個人や企業による取組への参加と、連携体制の構築を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 「本別町SDGs未来都市計画」の実現に向けて、経済面「本別町ブランド認証制度」、社会面「中心市街地のリブランディング」、環境面「本別公園のリブランディング」の三側面の取組に加えて、「本別町SDGsポイント推進」を町民のインセンティブとなる取組として実施する。					【本別町SDGs リブランディング事業全体イメージ】 ※赤字が本事業にて実施する取組 【経済・環境・社会の三側面の取組を同時に推進することで、相乗効果を得ることができる】	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・中心市街地のリブランディング事業 空き店舗サブリース事業構築と商店街のGX化に向けた調査費 6,024千円 ・本別町ブランド認証制度事業 プロモーション等費用 500千円 ・事務局運営費 3,000千円 商品やサービスの開発（補助金） 5,000千円 ・本別公園のリブランディング事業 環境学習看板維持管理（10箇所）、環境学習体験サービス導入 1,000千円 ・本別町SDGsポイント推進事業 ポイント制度構築費（パイロット事業実施費含む） 2,322千円 ○拠点整備事業 ・本別公園オートキャンプ場整備工事 建築工事 72,787千円 土木工事 62,062千円						
主なKPI	①域内消費の増加（+20億円） ②官民による新たな事業の創出数（+6件） ③新たに利活用された空き店舗の数（+3件） ④高付加価値化した地域商品数（+20件） ⑤本別公園の利用者数の増加率（+15%） ⑥本別町SDGsポイント参加事業者数（+50事業者）					URL	https://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/
※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値		※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL					

事業概要：（仮称）茶内ふれあい交流公園再整備による賑わい創出事業

新規

申請者	北海道浜中町					初回採択回	令和8年1月募集	
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	242,484千円 (128,138千円)	
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	子ども・子育てを起点とした交流拠点の整備を通じて、地域内外から人の流れを創出し、周辺における消費機会の拡大や来訪動機の強化を図る。本事業により、公園を来訪・滞在の拠点として再整備することで、キッチンカーの出店やイベント開催等を通じた新たな消費機会の創出が可能となり、地場産業や町内事業者の付加価値向上及び販路拡大につながることが期待される。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ヒアリング、アンケート、ワークショップに基づく理想的かつ機能的な公園として改修を行い、子どもが安心して遊べる環境の創出を行う。 また、周遊・滞在拠点としての機能強化、イベント等を通じた世代間交流の自然な創出と周辺商工事業者等への経済効果を実現する。 結果として、「子育てしやすい町」「人と人とのつながりを感じられる町」という本町が目指す将来像の実現に寄与し、将来的な定住促進や関係人口の創出・拡大につなげる。					 		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・土木工事 基盤整備、遊具設置、植栽、園路造成、雨水排水対策 99,990千円 ・建築工事 施設用備品管理用設備整備 0千円 ・電気工事 照明工、電源工、配線工 15,840千円 ・機械工事 トイレ改修、給水工事 10,890千円 ・工事監理 1,418千円							
主なKPI	①茶内市街における人口（推計人口との差）（+29人） ②子育て世代を対象としたアンケートにおいて、「公園整備により、子育てがやすくなった」と回答した割合（+60%） ③本公園を利用した賑わい創出・交流イベントの開催回数（+2回）					URL	https://www.townhamanaka.jp/profile/2017-0309-vision.html	
※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値							※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	

事業概要：川湯温泉街再整備事業

新規

申請者	北海道弟子屈町						初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度						期間中の総事業費 （カッコ内はR8年度事業費）	2,867,289千円 （227,289千円）
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	✓		
目的・効果	・この地域ならではの温浴体験ができる施設であることから滞在時間の増加が図られ上質な滞在環境を好む宿泊者数の増加を図る。 ・新たな拠点整備を行い、新たな事業者の参入を促すことで交流人口の増加、地域経済の維持拡大を図る。 ・これらの効果が最大限発揮されるよう、インフラ整備、拠点整備と併せて様々なソフト事業を実施する。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 町道無電柱化による景観改善、廃屋跡地に川湯温泉を象徴する新たなシンボルとなる（仮称）川湯広場の整備や、新たな企業誘致を想定した新たな観光拠点である「川湯テラス・川湯横丁」の整備など温泉街を面的に整備する。これにより新規事業者の増加、既存事業者の収益向上、来訪者・宿泊者数の増加を図り、地場産業の付加価値向上を目指す。また、ソフト事業も並行して実施しハード整備をより効果的なものとする事で、働き手の流出を防ぎ、新たな事業者の増加による地域交流人口の増加を図り、いつでも賑わいを感じ現在住んでいる地域住民も豊かに住み続けられる温泉街の再生を目指す。						イメージバース 全景-2 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・川湯温泉デザイン、ブランディング事業（委託料）18,918千円 ・交通計画作成事業（委託料）10,000千円 ○拠点整備事業 ・川湯テラス・横丁整備（設計） 129,506千円 ○インフラ整備事業 ・川湯広場整備事業 19,978千円 ※川湯広場の上流にあたる温泉川に生活排水が流れ込まないようにするための詳細設計							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①川湯地区における観光消費額（＋9億円） ②川湯地区における観光入込客数のうち宿泊者数の割合（＋4.0%） ③川湯地区における外国人延宿泊数（＋1万8千人） ④川湯地区における延べ宿泊者数（＋4万人） ⑤弟子屈なび（観光ポータルサイト）閲覧数（＋16万PV）						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/kurashi/soshikiichiran/kankos_hokoka/2/index.html

申請者	北海道白糠町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8年度					期間中の総事業費 （カッコ内はR8年度事業費）	200,000千円 （200,000千円）
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	官民連携で大型スーパー（飲食料品等小売施設）を整備することで、隣町へ流出した消費を町内に戻すとともに、白糠町が持つ豊かな漁業資源の町内流通を確保する。また、町内を運行しているデマンドバスとの連携によって買い物弱者の解消と町内経済の活性を図り、ひいては新たな雇用、若者の定住と移住促進を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 町内唯一の大型スーパーが2021年末をもって撤退したことを受け、官民連携で大型スーパー（飲食料品等小売施設）を新たに整備する。これにより、隣町へ流出した消費を町内に戻すとともに、白糠町が持つ豊かな漁業資源の町内流通を確保する。食料品（生鮮食品・総菜含む）や日用品などの生活必需品を取り扱う大型スーパー（総面積約6,000㎡、延べ床面積1,835㎡、うち売り場面積1,151㎡）を整備する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・飲食料品等小売施設の建設等に対する補助金 補助金 200,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①目標人口（▲574人） ②スーパーの利用者数（29万人） ③町内の取引事業者数（27事業者） ④無償定住宅地の譲渡世帯数（13世帯） ⑤地元の雇用者数（10人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.shiranuka.lg.jp/section/kikaku/h8v21a000000h6y4.html

事業概要：町営野球場整備事業

新規

申請者	北海道別海町						初回採択回	令和8年1月募集	
事業計画期間	R8-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	663,264千円 (471,300千円)	
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業				
目的・効果	・スポーツツーリズム推進による交流人口拡大と宿泊・飲食業等への経済波及効果創出を目指す。 ・持続可能な地域発展モデル構築と雇用創出による若年層定住促進と地域競争力強化に繋げる。 ・LED照明・電光掲示板導入による競技環境の質向上と環境負荷削減の同時実現を目指す。								
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 LED照明導入による電力・CO2削減と電光掲示板設置により、プロ野球球団ホームゲーム等の集客力を強化し、年間4,000人超の観客からさらなる交流人口拡大を実現します。宿泊・飲食・観光関連事業者への経済波及効果を創出し、地域雇用創出と若年層定住促進に寄与します。環境配慮型施設として地域ブランド価値を向上させ、「交流消費創出拠点」として持続可能な地域発展モデルを構築します。						 ※スコアボードのイメージ		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・高圧ケーブル改修、キュービクル設備改修工事 27,000千円 ・電光スコアボード整備工事実施設計業務委託 9,100千円 ・電光スコアボード整備工事 434,000千円 ・用器具庫設置工事 1,200千円								
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①スポーツイベント来訪者の宿泊者数（+900人） ②スポーツ施設の利用者数（+5,400人） ③観光客入込客数（+7,200人） ④新規開業者数（+9件） ⑤ナイター利用回数（+40回）						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年3月公表予定	

事業概要：ふるさと交流館再整備事業

新規

申請者	北海道別海町						初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,000,000千円 (119,392千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	既存の温浴施設である、ふるさと交流館を地域経済循環の拠点施設として再整備する。施設整備により、宿泊・飲食・物販機能の強化を図り、地産地消の推進や一次産品の付加価値向上を図る。このほか、体験を重視した観光プログラム等と連携した滞在型観光の受け皿として整備するなど、交流人口の拡大と滞在時間の伸長を目指す。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 既存の温浴施設である別海町ふるさと交流館について、地域経済循環の窓口となるよう、温浴・宿泊・飲食・物販機能を統合した複合施設に転換する。温浴施設のリニューアルによる住民の健康増進、宿泊機能による滞在型観光の推進、地域産品を活用した飲食・物販機能による地産地消と付加価値向上を実現する。 また、地域住民・生産者・商工事業者との連携により地域全体の経済活性化を図り、持続可能な運営を目指す。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・実施設計 119,392千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額の増加（+10%） ②ふるさと交流館温浴施設利用者の平均滞在時間（+60分） ③ふるさと交流館温浴施設利用者収入に対する光熱水費比率（▲21%） ④ふるさと交流館温浴機能年間利用者数（+1,4万人）						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年3月公表予定

事業概要：知床世界遺産をはじめとする地域の特色も生かした子育て環境の充実事業

新規

申請者	北海道羅臼町						初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	379,316千円 (25,322千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	・中心市街地に複合型の子育て施設を整備することにより、子どもたちの放課後の居場所をつくるとともに、子育て世代が各種支援を受けやすい環境を整備する。 ・これらにより、子育て環境に対する満足度を向上させ、年少人口の減少傾向に歯止めをかける。また、共働き世帯等が安心して働ける環境の整備や中心市街地の活性化等を通じて、地域経済の維持及び拡大にも資する。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 空き施設となる幼稚園園舎を活用し、中心市街地に子育て支援、発達支援、放課後児童クラブ、放課後の子どもの遊び場、保護者の交流の場等の機能を有する複合型の子育て施設を整備する。 共働き世帯・ひとり親世帯が安心して働ける環境の整備及び中心市街地への子育て世帯等の人の流れを作り、中心市街地の活性化・地域内経済循環拡大を図る。						複合型の子育て施設の整備  子育て支援（イメージ） 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・複合型子育て施設 改修設計 25,322千円							
主なKPI	①年少人口（▲115人） ②保育サービスなどの子育てのしやすさに関する満足度（+7%） ③仕事と家庭の両立のしやすさに関する満足度（+12%）						URL	令和8年度6月公表予定
※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値								
※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL								

申請者	北海道羅臼町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	104,342千円 (39,291千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	本事業は、当町の優れた観光ポテンシャルを活かし、インバウンドも含めた観光客の滞在時間の延伸や宿泊客数の増加、観光消費額の増加の実現を目指していることから、地場産業の付加価値向上や販路開拓等を支援し、地域経済の維持及び拡大を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ホエールウォッチングをはじめとした観光コンテンツや海産物をはじめとした食などについて、国内に加えて海外も対象とし、英語版HPを作成したうえで、SNS等を活用したプロモーションを実施する。 羅臼オートキャンプ場においては、シャワーの供用開始のため、水道管の引き込みやシャワー設備の改修工事等を実施する。また、キャンプ用品の貸し出し等を実施するため、管理棟の内装改修等を実施する。更に、安全対策強化のため、熊電気柵の範囲拡大と出入庫管理システムの設置を行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・海外プロモーションに向けた英語版HP等作成（委託料）3,500千円 ○拠点整備事業 ・羅臼オートキャンプ場 管理棟改修工事 22,781千円 ・羅臼オートキャンプ場 水道管引き込み設計 13,010千円					 	
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①羅臼町における観光客宿泊数（+9,000人） ②羅臼オートキャンプ場における観光消費額（+240万円） ③羅臼オートキャンプ場における利用者数（+1,000人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度6月公表予定

申請者	北海道羅臼町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,000,000千円 (115,464千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	当町の優れた地熱ポテンシャルを活かし、パートナー事業者による地熱発電所の新規導入及び温泉を活かした脱炭素と産業振興の実現を目指す。地場産業の付加価値向上や販路開拓等を支援し、地域経済の維持及び拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域内への温泉供給量を増加させるとともに、パートナー事業者による地熱発電所の新規導入を実現させるため、地熱井から市街地までの温泉水送水管を大口径のもの（送水可能量：約5,000L/min）に改修し、温泉資源の有効活用に向けた基盤を整備する。 パートナー事業者による地域新エネルギー会社の立ち上げや地熱発電所の新規導入を実現させるとともに、温泉資源を活用した企業誘致・新事業展開（観光分野・水産分野等）や地域内事業者のエネルギー代金の削減を推進する。					< 現状 >  温泉造成 ：約1,200L/min 温泉送水能力 ：約2,000L/min 温泉・熱利用 ：旅館、公共施設等 < 事業実施後 >    温泉造成（最大） ：約3,500L/min 温泉送水能力 ：約5,000L/min 温泉・熱利用の拡大 ：企業誘致・新事業展開 新たな暖房利用等	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・温泉水送水管 改修設計 115,464千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①温泉資源を活用した企業誘致・新事業展開（+8社） ②温泉熱を活用した暖房等の新規導入件数（+7件） ③地域新エネルギー供給会社の立ち上げ件数（+1件） ④地域新エネルギー供給会社の売上額（+1.8億円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度6月公表予定